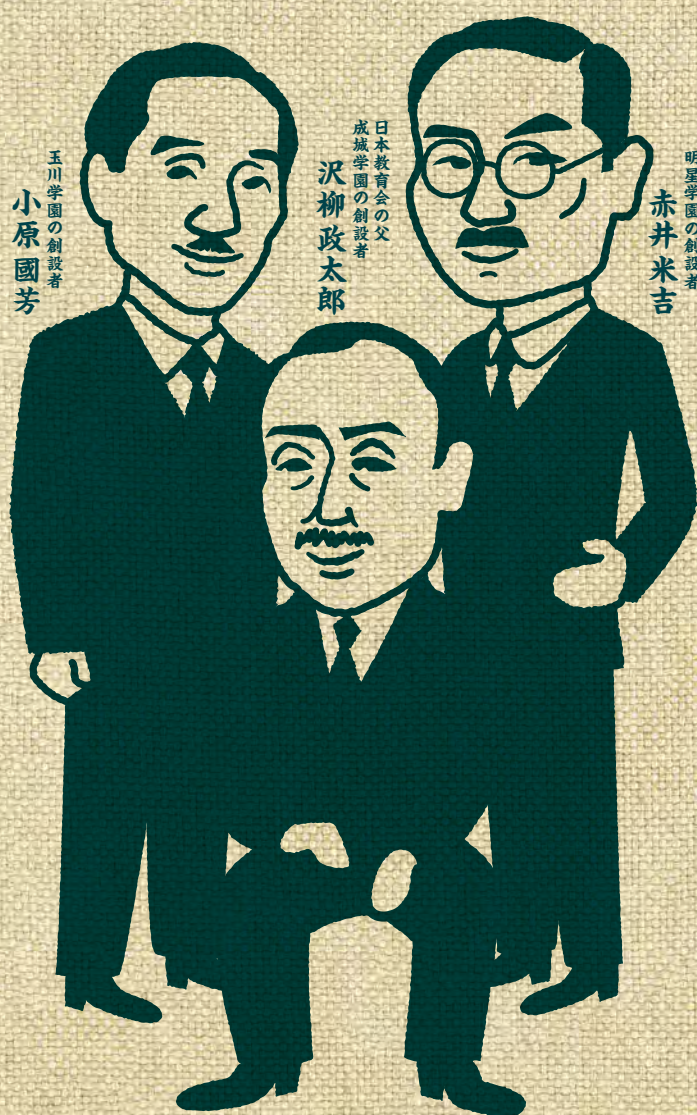


明星学園100周年記念シンポジウム

大正自由教育の現在、 そして未来



玉川学園の創設者
小原國芳

日本教育会の父
成城学園の創設者
沢柳政太郎

明星学園の創設者
赤井米吉



学校
法人

明星学園

明星学園100周年記念シンポジウム

大正自由教育の現在、そして未来

第1部 講演

『赤井米吉と小原國芳 ―両雄並び立つ―』

玉川大学学術研究所特別研究員 白柳弘幸

第2部 座談会

『大正自由教育の現在、そして未来』

参加校 成城学園／明星学園／玉川学園／和光学園／

清明学園／自由学園／自由の森学園

2024年8月30日(金)
武蔵野公会堂大ホールにて

学校法人 明星学園

ごあいさつ	4
(学校法人明星学園理事長 渡辺京)	

第一部 講演『赤井米吉と小原國芳―両雄並び立つ―』白柳弘幸

はじめに	8
------	---

1. 赤井米吉

出生から石川県師範学校卒業	8
---------------	---

西田幾太郎と赤井米吉の姻戚図／キリスト教の洗礼を受ける／夫人、野里つるとの出会い

広島高等師範学校から成城小学校へ	10
------------------	----

YMCA光塩会への入会／先輩の死に直面し信仰を深める／愛媛県師範学校に就職、新教育との出会い／秋田師範学校を辞め、成城小学校へ

2. 小原國芳

出生から鹿児島県師範学校卒業	12
----------------	----

母の手伝いをしながら「劳作教育」「個性尊重」の原点を体感する／往復24キロの道のりを通って小学校を卒業する／不本意な養子入り、望まぬ結婚、苦悩の日々

広島高等師範学校から成城小学校へ	13
------------------	----

生涯の友、赤井米吉・上田八一郎との出会い／YMCAの活動に力を入れる／YMCA日曜学校での赤井先生と小原先生／広島高等師範学校 YMCA光塩会三羽鳥／京都大学から広島高等師範学校附属小学校へ 澤柳先生の誘いで成城小学校へ

3. 生まれ・育ち——よく似ている赤井米吉と小原國芳の「境遇」と「信仰心」	15
---------------------------------------	----

教育・養子・息子の名前——二人の共通点／苦悩・信仰——第二の共通点／悲しみ、苦悩を伴いながら教育に邁進 キリスト教への深い信仰心

4. 成城小学校にての赤井と小原	16
------------------	----

成城学校とは／成城小学校開校——4つの綱領／成城小学校での小原國芳／成城小学校での赤井米吉／両雄並び励むが……／両雄並び立たず、か？

5. その後、約半世紀の友情	19
----------------	----

赤井、明星学園創立／小原、玉川学園創立／赤井 新教育啓蒙に邁進／小原 新教育啓蒙に邁進／山あり谷あり／明星学園30周年の式典にての小原／赤井、小原の参院選挙運動に没頭／玉川学園30周年記念誌 赤井は語る／赤井創（赤井の孫）の語る「祖父と小原先生との思い出」／赤井米吉逝去

おわりに 両雄並び立つ……	24
---------------	----

第2部 座談会 『大正自由教育の現在、そして未来』	27
---------------------------	----

参加校 成城学園／明星学園／玉川学園／和光学園／清明学園／自由学園／自由の森学園

1. 大正自由教育の流れを汲む7校の「現在」
2. 「自由」の持つ厳しさ
3. 「科学的研究を基とする教育」とは？
4. 「教育」と「理想社会」
5. 新学習指導要領をいかに考えるか？
6. おわりに

開会宣言

総合同会 土屋和臣(明星学園高等学校副校長)

大変お待たせいたしました。

これより明星学園創立100周年記念シンポジウム2024『大正自由教育の現在、そして未来』を開会いたします。開会に先立ち、本校理事長渡辺京より挨拶がございます。渡辺理事長、よろしくお願いします。

理事長挨拶

渡辺京(学校法人明星学園理事長)

こんにちは。なんと今日は台風接近で、大変な悪天候になってしまいました。が、明星学園の企画にご参加くださりましてありがとうございます。

ございます。先生方にとって
は二期が始まる直前、大変
お忙しい時間かと思いき
が、今日ご登壇いただく先生
方はそういう貴重な時間を
割いて参加してくださいま
した。



皆さんもご存じのように、明星学園は今年5月15日に100周年を迎えました。今日、前半でお話した白柳先生のお話は、私たちがこれまで常識だと思っていた赤井先生と小原先生の関係を、違った視点からお話したということ、大変興味深く思っています。また後半は、明星学園も含めた7つの学校の先生方のシンポジウムです。大正デモクラシーから受け継いだ教育理念は大変素晴らしいのですが、今の子どもたちにそれをどう生かせるのか、どう伝えるのかということは大変難しく、いろいろな課題を抱えている、明星学園もそうです。そういう生々しい現在の実践を共有できる機会が得られたことは、大変貴重だと感じています。

今、世の中はあらゆるところで武力による紛争が拡大しています。大国のリーダーの中から、第三次世界大戦が近いのではないかと、原子爆弾でないと解決できないのではないかとという話が出てくるぐらいで、これからの世の中というのは再び大きな曲がり角を迎えるかもしれません。

私たちが携わっている教育という仕事は、未来に生きる子どもたちを育てることです。そういう意味では、私たち教師、あるいは教育は、未来の社会にまで責任を持って仕事をしていかなければならないのだと最近感じております。今日は登壇していただく先生方、それから明星学園の小中高の現役の先生方、そして今日お集まりいただいた参加者の皆さんと一緒に、いったい教育って何なんだろう

ということを、じっくり考える時間にしていきたいと思っています。
どうぞ、2時間半という短い時間ですが、最後までお付き合いください。よろしく願います。

総合司会 土屋

ありがとうございます。

シンポジウム第1部は、白柳弘幸先生によるご講演、『赤井米吉と小原國芳 ―両雄並び立つ―』です。

白柳先生は、玉川学園小学部教諭を経て、玉川大学教育博物館学芸員、玉川大学教育学部全人教育研究センター研究員を務められたあと、現在は玉川大学学術研究所特別研究員でいらっしゃいます。

では、白柳先生、よろしく願います。



第一部

講演

『赤井米吉と小原國芳——両雄並び立つ——』

玉川大学学術研究所特別研究員 白柳弘幸

はじめに

今日は明星学園創立100周年記念ということで、まずは関係者の皆様おめでとうございます。また、台風の中お集まりいただき、本当にありがとうございます。

国立、公立、私立、日本の国内で創立100周年を迎えた学校というのは数多くあると思います。ところが、国公立の学校では、創立者の先生は誰なのか、またどのような理念が創立の時に述べられたのか、今に伝わっているのでしょうか。その辺を詳しく調べたわけではありませんが、私立の学校というのは、建学の精神に基づいた思いがそれなりに生きているのではないのでしょうか。その学校の校風とか気風などが学校の中に今でも生きている、明星学園もそうした学校のひとつであろうと私は思っています。

今日は創立者の赤井米吉先生、また玉川学園創立者である小原國芳先生、二人の関係について短い時間ですけれども、私からお話をさせていただきます。

2017年の11月に成城学園の創立100周年記念シンポジウムがありました。その時は、成城学園から分かれた今の玉川、明星などの話でしたから、あまり過去に触れることはありませんでした。赤井先生や小原先生のこと時々話題になる中で、あまり二人について知られていないのではないかという思いがありました。その時から史料を集め始めて、どこかでこの二人の先生の関係について

発表できたらと思い、研究を進めておりました。

私は今、玉川大学学術研究所というところに所属しており、玉川大学教育博物館が所蔵している小原國芳先生の残した原稿や史料の整理を進めております。

分散していた小原先生の史料を集めて積んでみたら原稿用紙だけで1m以上にもなるような状況でした。その整理を行うことになったときには大変驚きました。今もまだ続いています、いろいろな史料を見えています、やはり赤井先生のことが出てきます。

まずは赤井先生から紹介します。

1. 赤井米吉

出生から石川県師範学校卒業

赤井先生は1887(明治20)年に生まれました。現在の石川県金沢市内のお城に近いところですが、元々の苗字は山本です。途中で養子になり赤井姓になりますが、この山本の家というのは金沢城、加賀百万石のお膝元で庄屋を束ねる大庄屋でした。その家の三男として生まれ、小学校に通いながら漢籍を学びました。

ご親戚ということは聞き知っていましたが、養子になり、西田幾多郎という京都大学の有名な学者のお母さんが赤井家のおばあさんと姉妹という関係であることが分かりました。

●西田幾太郎と赤井米吉の姻戚図

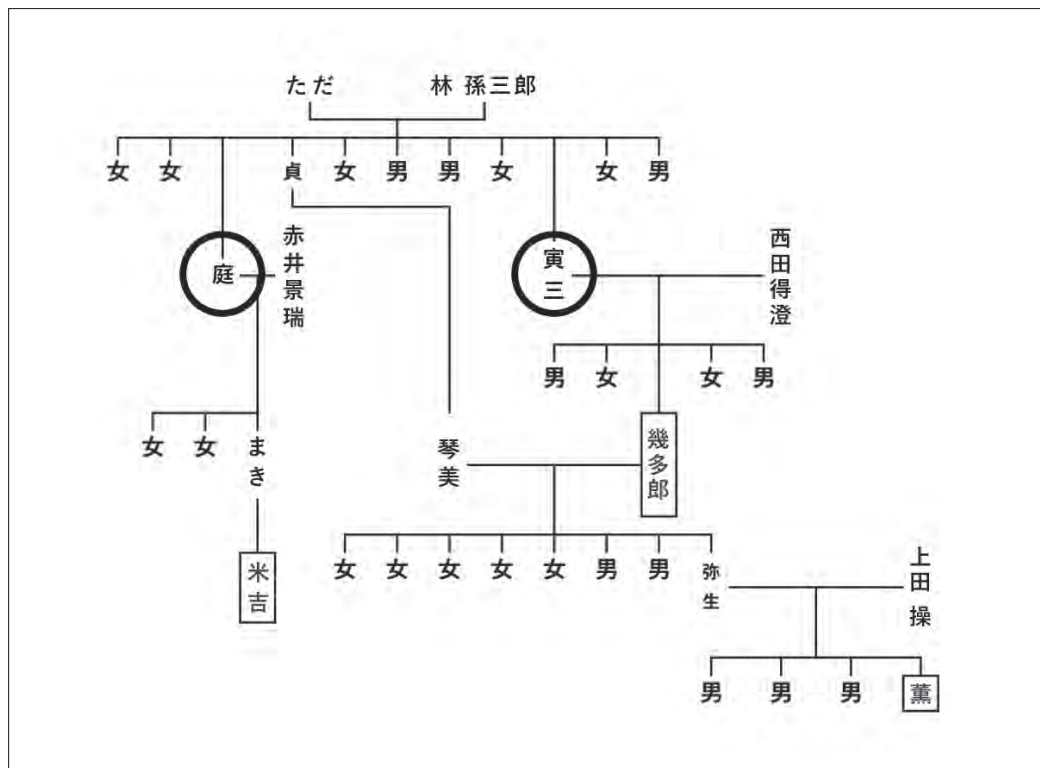
赤井先生の養子に行った先のお母さんのお母さんが庭です。この方が赤井の家に嫁がれました。そしてこの庭さんの姉寅三さんが西田家に嫁がれました。幾太郎先生と赤井先生の義理のお母さんとはいとこ同士です。そんな関係で赤井先生と幾太郎先生とは従妹叔父の關係にあります。

ついでながら、この系図からわかりましたのは、幾太郎先生の長女が上田というところに嫁がれます。ここでお生まれになったのが上田薫先生です。この上田薫先生というのは、社会科の教科教育に関心のある方はご存じかもしれませんが、戦後の日本の社会科をつくり上げた方、道徳教育の基礎をつくり上げた方です。

●キリスト教の洗礼を受ける

当時の、小学校の課程は4年制でした。ここを終えて、高等科に進みます。そしてその頃自宅が火事になり、過失で隣の家も燃やしてしまい、よい言葉ではありませんが没落してしまいます。

先生はこの頃、自宅近くの犀川の岸の反対側にあるキリスト教の教会に通っていました。兄弟たちも通っていましたが、最後まで通い続けたのは赤井先生だけでした。そして、そのことを思い出として書かれた文章の中には、「長く続いた信仰は、神様の特別な恵みにあずかった」とありました。そして14歳の時に、洗礼を受けます。クリスチャンになられたわけです。



●夫人、野里つるとの出会い

小学校高等科を終え、旧制県立第二中学校という、今は金沢で1、2位を争う難関校に進学をします。

そして、中学校をやめて、師範学校に行きます。

当時は、旧制中学や、旧制の高等女学校に進学する家庭の子どもは、師範学校にはあまり進学しなかったようです。家庭が貧しいけれども非常に優秀である場合、働かせるのはもったいないということで師範学校に進学する人がたいへん多かったようです。赤井先生もそういった意味で師範学校に進学されたのではないかと思います。自伝等には書かれていませんが、赤井先生も家庭の事情で多分そのように勧められたのではないかと思います。

そして、師範学校を卒業した後、広島的高等師範を受験しますが失敗してしまい、小学校の先生になります。その時に生徒だった野里つるさんと出会います。のちの奥様です。

広島高等師範学校から成城小学校へ

●YMCA光塩会への入会

そしてまた翌年、1908(明治41)年に広島高等師範を受けて合格し進学します。

制服姿が凛々しいですね。

高等師範学校というのは師範と同じように月謝が無料で、お小遣いもいただいていたようです。



赤井米吉先生
1908(明治41)年 21歳

- ・広島高師予科英語科入学(予科1年・本科3年)
- ・クリスチャン学生のYMCA光塩会入会
- ・赤井家の養子に

小学校の先生をしていたのに、またその上の師範学校へ行かれたというのは、やはり向学心が旺盛であったからでしょう。今も経済的な理由で学校に行けない若者が多いと盛んに言われていますが、当時の師範学校と高等師範学校で優秀なお子さんたちが学資の心配なく学べたということは大変素晴らしい制度だったと思います。現在であれば、防衛大・防衛医科大・自治医科大などがありますが、文科省には是非こういう学校を復活してもらいたいと個人的に思っています。

高等師範では、クリスチャン学生の集まるYMCA光塩会に入ります。そして、そのころに西田幾太郎の仲介で赤井家の養子になります。

●先輩の死に直面し信仰を深める

当時の高等師範学校は予科は1年で本科は3年でした。赤井先生が本科1年になったときに、小原國芳先生が予科に入学します。日曜学校の校長であったことや聖書購読や祈祷会など、赤井先生は大変活発にYMCAの活動をしていましたようです。

22歳の時、クリスチャンの伝道者で大変有名な本間俊平先生を訪問し、教えを乞いながら働きつつクリスチャンのあり方をみつけれられたようです。

23歳の卒業間近に寮の同室で暮らしていた3年生の先輩が亡くなってしまったという大変な出来事に出会います。昨日まで隣の布団で寝ていた先輩がいない、今まで普通に暮らしてきたのにいない、今まで当たり前だと思ったことが当たり前でできなくなったという、人間の死を初めて体験してとても苦しまれました。

「うつらうつらしていたときに、窓の外の暗闇から夜が明けるのを見た。神天地を造りえりの声を聞き、死という暗闇を恐れる必要がない、私は神の国にいるということを悟った。」と自伝にあります。先輩の死を通して赤井先生の信仰がより深まったのではないのでしょうか。

●愛媛県師範学校に就職、新教育との出会い

広島高等師範を卒業した後、最初に愛媛県の師範学校の先生になります。そこに後の明星に関わる山本徳行先生が生徒としていました。

その後つるさんと結婚され、お子さんが産まれますが、昔はお子さんが生まれても育たないということがあったようで、2か月後に亡くなってしまいます。そして、転勤があり今度は師範学校の先生から、福井県小浜の水産学校の先生に変わります。実業学校ですから、勉強も大切ですが、実習が多く労作教育に対しての理解を深めていきました。

そういったところで過ごしながら、戦前の国語教育で有名な芦田恵之助の講習会に事務として参加します。そこで話を聞いて「新教育に目覚めた」と書かれています。私には不思議だと思っています。小原先生もよく書いていますが、広島高等師範では新教育が盛んに唱えられていて、小西重直などの先生の下で学んでいれば、当然ながら新教育についての知識があつたはずですから「新教育に目覚めた」というのは、理論だけではなく実際の体験を通して「新教育とはこうあるべきだ」という理解が深まったのではないかと思います。

そして、愛媛県師範学校、小浜水産学校から福井県の武生中学校に転勤になります。そこで33歳の時に生まれた次男も亡くなります。次男の名前は哲郎といいます。玉川学園の関係者は哲郎！（後の話に通ずる）と驚かれるかと思いますが亡くなってしまいました。

●秋田県師範学校を辞め、成城小学校へ

1923（大正12）年に秋田県師範学校に転勤します。そこでは学校劇や新教育の講演などを活発におこなったせいでしょうか、校長先生と対立があり「それなら俺はやめる」と言い辞めてしまいます。そこを

ちゃんとわかっていたのは小原國芳です。小原先生はすでに成城小学校にいたので、「それならうちの学校に来てほしい」ということで、成城小学校の教員になり、赤井と小原の職場は一緒になります。

2. 小原國芳

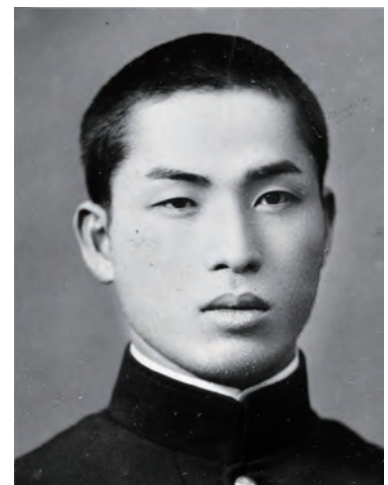
出生から鹿児島師範学校卒業

●母の手伝いをしながら「劳作教育」「個性尊重」の原点を体感する

小原國芳先生は鹿児島県の川辺郡西南方村久志というところで生まれました。現在の南さつま市になります。昨日台風が上陸したのは薩摩川内市でしたが、薩摩川内市のもう少し南の方になります。東シナ海に面した小さな村です。そこで生まれました。

兄弟は六男一女で、三男でした。ここでも偶然にも2人とも三男で、生まれたのも1〜2か月違いくらいでした。代々島津藩士でしたが、島津藩士といっても田舎で暮らしていましたから、半農藩士だったと思われます。おじいさんは寺子屋の師匠でした。亡くなられてからも村の人から慕われていたことを聞かされ、おじいさんのような先生になることに憧れたようです。村の郵便屋のようなこととしていたと書かれています。お父さんは西南の役に出征し、負けて御手打ちになる寸前に助かったという経験をしています。

「明治天皇の無駄な人殺しはするな」という指示があと半日遅かったら俺の命はなかっただろう」というお父さんの言葉があり、明治



写真：一部修正

小原國芳先生
1909(明治42)年 22歳

- ・広島高師予科英語科入学
- ・光塩会入会
- ・学業よりも弓道に打ち込む
- ・生涯の友となる赤井米吉、上田一郎と出会う

天皇の心の深さがありがたいと小原先生は明治天皇を崇拜していました。

ところが、お父さんは明治維新のどさくさの中で育ったものですから、あまり教育を受けられなかったようです。いろいろな仕事に誘われても断ることができないまま金山経営に手を出して失敗します。小原先生の自伝に、生まれた時は金屏風に囲まれていたと書かれています。先祖伝来の土地建物を借金で形どられてしまう中で、没落してしまっただけのことです。

そのような中で、5歳の時に飛び級で小学校に入ります。高等科では国漢好きの担任から漢籍の手ほどきを受けました。家では母親の機を織る手伝いを盛んにする中で働き方の工夫をしていきました。小原先生は小さな時の思い出のこととして『幼き日』『少年のころ』という2冊の本の中に、幼い頃の体験が、劳作教育や個性尊重とい

う言葉は知らないけれども身をもって体験していたということが書かれていました。

また学校教育だけではなく、薩摩の場合は村の青少年団の教育組織、郷中教育ごうちうというのがあり、そこで先輩たちに鍛えられました。何年か前のNHKの大河ドラマ『西郷どん』の中で子供たちが剣道に励んでいるシーンが多々出てきて、小原先生と重ねながら見ていました。

●往復24キロの道を通って小学校を卒業する

お母さんを11歳の時、お父さんを13歳の時に亡くしています。幼い頃に両親を亡くするという体験、大変な不幸にあいます。

通っていた久志尋常小学校はそこを卒業しても正規の高等小学校の卒業証書がもらえないということが分かりました。そこで急遽2か月間、家から片道12キロある枕崎市の桜山尋常高等小学校に通い最終的に卒業証書を受け取りました。

この往復24キロ、片道12キロというのは結構な距離です。実は私、数年前に小原先生が歩いたこの山道を歩きましたが、とても大変なところでした。こんなところを小学生が毎日通ったのか、と思うほどの大変な山道でした。でも、その頑張りがあったから後々の人生が開けたのではないかと想像しました。

●不本意な養子入り、望まぬ結婚、苦悩の日々

小学校卒業後、電信技手の学校を経て技手として働いていました。そこにキリスト教伝道師が月1回ぐらい来てキリスト教に出会い

ます。その時の下宿先の娘さんが師範学校を受けるという話を聞き、やはりおいしいさんのような師匠になりたいという思いが強くなり、技手の仕事を辞め師範学校に進みます。当時の電信技手の給料は、師範学校を終えた学校の先生の給料より3〜4倍良かった、今でいうIT技術者ともいいましょるか。その仕事をなげうって、あえて教師になるという少年の頃からの夢の実現のために師範学校に進みます。

そこでいろいろな先生方と出会います。一番大きかったのは、鹿児島教会での伝道師ランシングとの出会いです。この出会いによりキリスト教への興味関心が高まっています。

でもそんな折、お兄さんから実家が潰れて大変な状況を理由に、不本意な養子入りを言い渡され、挙句の果てに望まぬ結婚をするこ
とになり苦悩が増していきます。

広島高等師範学校から成城小学校へ

●生涯の友、赤井米吉・上田八郎との出会い

そして、師範学校卒業後もっと勉強したいという気持ちもあったのでしょうか、広島高等師範学校に進みます。そこで生涯の友となる赤井先生と上田先生と出会います。

上田八郎先生は明星ではおなじみの先生ですが、小原先生とは同級生で、寮では1年間同じ部屋で過ごしたということです。

● Y M C A の活動に力を入れる

広島高等師範学校に進学しますが、いやいやさせられた愛のない結婚生活に苦悩を抱きながら学校生活を送っていました。ですから Y M C A のような活動に力が入ったのではないかと思います。

そして高等師範学校を卒業後、小原先生は香川県師範学校の教諭兼訓導になります。

● Y M C A 日曜学校での赤井先生と小原先生

これは Y M C A の日曜学校の写真です。これだけ大勢のお子さんが日曜学校に通われていたようです。

もともと学校の先生を希望している人たちですから、日曜学校では非常に熱意を持って教えていたようです。

● 広島高等師範学校 Y M C A 光塩会三羽鳥

そういつた Y M C A のお仲間の写真を明星学園の資料室からいただきました。

小原先生、赤井先生、隈部先生。隈部先生も卒業してからは学校の先生をしていたようです。

● 京都大学から広島高等師範学校附属小学校へ 澤柳先生の誘いで成城小学校へ

広島高等師範を卒業した後、赤井先生は愛媛県師範学校の先生になります。小原先生も香川県師範学校の先生になります。その



広島下中町の教会にて 日曜学校

*最後列左端が赤井先生 最後列左から3人めが小原先生

後、もつと勉強したいと京都大学に進学します。

ここで西田幾太郎、朝永三十郎、波多野精一、小西重直らの、小原先生の言葉をかりますと京都大学の黄金期の教授陣だったということになります。そういうところで学び31歳の時に広島高等師範学校の附属小学校の先生として着任します。そこで学校劇を提唱したり、『教育の根本問題としての宗教』を発表するなど、盛んに後々に残る仕事を進めます。

そのような中で養子を解消し離婚します。ところがこの離婚は「教師としてあるまじきことである」と広島では大変評判が悪く周囲の無理解に苦しんでいたようです。

その頃に、成城小学校の澤柳先生に「出て来い」と誘いを受け、成城小学校に着任します。

3. 生まれ・育ち

よく似ている赤井米吉と
小原國芳の「境遇」と「信仰心」

さて、簡単に二人の境遇を紹介しましたが、明星の方は赤井先生について、玉川の方は小原先生についてご存じだとは思いますが、相手方の先生の生い立ちまではご存じなかったのではないのでしょうか。今回調べを進めてきて赤井先生の生い立ちを知り、全く異なる土地に生まれ育ったにもかかわらず、小原先生と赤井先生は本当に驚くほどよく似ていることがわかりました。

ともに生まれは1887（明治20）年、育った土地は石川県は降雪が多く鹿児島県は台風が多い、ともに気象条件が厳しいところです。



写真：一部修正

広島高師 光塩会三羽鳥

左： 小原（英語科1年）
中央： 赤井（英語科2年）
右： 隈部（博物科3年）

どちらも実家が没落、そして実家には武士の家風がありました。人格形成に影響したのではないかと思います。

赤井先生は戦後公職追放に遭いますが、言い訳もせずそれを受け入れてしまいます。小原先生は小原先生で、澤柳先生から一番叱られたのは私だろう、でも叱られたことに対して申し立てや言い訳はしなかったと書いています。

武士は言い訳をするな、武士に二言はないという教えが染みついていたのではないのでしょうか。

● 教育・養子・息子の名前——二人の共通点

また公教育プラスアルファということで小学生時代に漢籍に親しんでいたこと、二人とも養子になったこと、そしてなんと、お子さ

んの名前も同じです。赤井先生のお子さんの哲郎さんが先に生まれましたが、小原先生の方の哲郎さんが生まれたときには、もう亡くなっていました。

実は玉川学園の史料室には、小原先生はご長男が生まれた時、名前をどうするかという時にさんざん迷ったようで、「そうだ哲郎だ」という電報が残っています。それはびっくりしましたが、おそらく赤井先生のお子さんが哲郎だというのを覚えていてつけたのではないのかと私は思うのです。

● 苦悩・信仰——第二の共通点——悲しみ、苦悩を伴いながら教育に邁進 キリスト教への深い信仰心

そして第二の共通点としては、悲しみ、苦悩を伴いながら教育に邁進していった点です。赤井先生は相次いでお子さんを失い、小原先生は愛なき結婚の後の離婚への無理解に苦しんでいました。

そして何よりも二人とも自らキリスト教を求めたということです。

恐らくこれは神様に呼ばれたのではないだろうかと私は思いました。赤井先生は、「神様の特別な恵みにあずかった気持ち」で14歳で受洗、小原先生は「身近な者との別れで不思議な何者かが自分のところにあった」と18歳で受洗。年齢に少し開きがありますが、そういった二人ですから、高等師範で3年間一緒に過ごしておそらく個人的な話もしたでしょうし、「こんなにお前と俺とは生い立ちが似ているのか」とお互い理解し濃い交わりが生まれたのではないでしょう。

この二人を結びつけたのは似た「境遇」と「信仰」だったのではない

いかと思います。私は、二人が信仰を求めた時に神様に呼ばれたのではない、恥ずかしながら、泣きながらワープロを打っておりまして。もう涙が出て涙が出て仕方がなかったのです。そんな経験は後にも先にもありません。この時だけです。



1917(大正6)年

沢柳政太郎 成城小学校開校

- ・ 個性尊重
- ・ 自然と親しむ教育
- ・ 心情的教育
- ・ 科学的研究を基とする教育

画一的教育を打破するために創立
教育研究を実証的に行う実験学校
日本の教育改造—新教育の推進

4. 成城小学校にての赤井と小原

● 成城学校とは

さて成城小学校で二人は再び出会うわけですが、成城小学校はどのようなところでしょうか。1885(明治18)年に成城学校ができました。現在の新宿にある学校法人成城学校 成城中学校・成城高等学校という学校のことですが、陸軍士官学校の予備教育のための私立学校として創立されました。「陸軍の成城」に対して、「海軍の攻玉社」

「海軍の海城」などと言われており、今でいうと軍人養成のための学校に近い性格だったのですが、成城学校の経営が立ち行かなくなつた時に何とかして有力者を迎えて経営を立て直してくれと白羽の矢がたったのが澤柳先生です。澤柳先生は「小学校を作ってくれるなら行ってもいい」ということで、1917(大正6)年に成城小学校の校長になります。

● 成城小学校開校——4つの綱領

あとで成城学園の先生からお話があると思いますが、「個性尊重の教育」「自然と親しむ教育」「心情の教育」「科学的研究を基とする教育」、これが成城の特色かと思っています。

個性の尊重、新教育の学校として確たるものがあつたと思います。新しい日本の教育を作るんだと、澤柳先生は大正自由教育、新教育に邁進します。

● 成城小学校での小原國芳

広島での生活で苦しんでいた時、澤柳先生の誘いにより1919(大正8)年11月、小原先生が32歳の時に成城小学校の主事として着任します。主事というのは校長と同じような立場でした。

『教育問題研究』という教育誌を発刊し、『学校劇論』『全人教育』を発表したり、子どもたちの学校には児童図書館を作つてほしいという児童図書設置要望をしたりと、八面六臂の活躍をします。

その内の一つ、小林宗作先生などを成城小学校の先生に招いたこ

ともやはり大きな特徴かと思っています。芸術教育、リトミックを大切にされたトットちゃんの先生です。

2ヶ月ほど前に「トットちゃんの学校」がNHKの新プロジェクトXで紹介されましたが、その時にこの写真も提供したのですが使ってもらえなくて残念でした。小林先生はリトミックを日本に広めた有名な方で、音楽の先生として「尋常小学校の唱歌は、子供の生活に合っていない」と苦悩を抱いて留学し、帰国後日本に広めていきました。



1919(大正8)年11月 32歳
成城小学校主事に着任

沢柳先生に見いだされたことは、一生の運のひらけ、幸せ者と成城教育(大正自由教育)に邁進

『教育問題研究』刊行 『学校劇論』
『全人教育』の発表 児童図書館設置要望

小林宗作(トットちゃんの先生)勧誘

※中央真ん中が小原、左が小林

● 成城小学校での赤井米吉

そして成城小学校での赤井先生はどうであったか。1922(大正11)年、35歳の時に着任し、澤柳先生の勧めによって『児童大学の実際』(ドルトン・プラン)などの翻訳をしました。

これで一躍有名になり、成城教育に大きな影響を与えます。

1924(大正13)年にパークストが来日します。その時はすでに明星創立後でしたが、成城小学校にいたときにドルトン・プランの翻訳に全力を尽くしていました。

この澤柳先生の勧めによる『児童大学の実際』などの翻訳を通して、赤井先生の仕事が大きく変わります。

一方で、澤柳先生は小原先生に『THE BOOK of KNOWLEDGE』という20巻くらいの児童向け百科事典を渡します。「西洋の学校で



1922(大正11)年 35歳
小原國芳、成城小学校の主事に着任

澤柳の勧めにより『児童大学の実際』等翻訳出版
時の人となる 成城教育に大きく寄与

1924(大正13)年 37歳

パークスト来日時の通訳 (明星学園創立後)

はこれを使って自学自習をしているが、日本にはそれが無い。お前これ作って見たらどうか、男の仕事だ」と言われましたが、すぐ取り組むチャンスのないまま時間が経ってしまいます。それでも最終的には取り組んでいくわけです。

競わせるわけではなく、二人それぞれに仕事を与えるところに、澤柳先生のすごさがわかります。

● 両雄並び励むが・・・

こうして二人一緒に仕事をしていく中で、この辺から赤井先生と小原先生の関係が微妙になっていきます。

赤井先生は、成城小学校の一部教員の怠慢を指摘することがありました。学校の経費、予算関係などまったくできていないと、教員たちに対して大変厳しい指摘をしました。赤井先生の言葉によると厳しくならざるを得ない状況であったと自伝に書かれています。生来の仕事好きですから小原先生への学校の仕事への取り組み方等への疑問もドンドンぶつけていきました。

小原先生は小原先生で、校長職として学校経営収益部門を設置します。成城小学校は少人数制の学校ですから生徒たちの月謝だけでは先生方のお給料が賄えない、学校経営が成り立たない、それを補うために自分が多方面に向いての講演料や、『教育問題研究』『学校劇論』『自由教育論』等の印税や著作から得られた収入で補填していたわけです。小原先生にしてみれば、「俺が稼いでいるんだからいいじゃないか」という考えもあったのではないかと思います。

それを、赤井先生は「授業をやらなくて原稿ばかり書いて、お前何やってんだ」ということで激しく責めたのではないでしょう。

● 両雄並び立たず、か？

こうして二人の間に感情的な対立が生まれてきます。これは二人とも書いていることですが、成城小学校の中にそれぞれを支持する先生たちが出てきて学校の中が小原派、赤井派と二分されます。これはよくないことだと澤柳先生と三者で話し合いになり、その時に「一緒にやっていくのは無理だろう、僕が小原君と呼ばれてきたんだから、僕が成城を辞めます」と、赤井先生は成城小学校を辞める決断をします。

その時にともに辞める決断したのが、照井先生であり山本先生です。そのことが、二人の友人の志垣寛が書いた『教育太平記』という本の中に「両雄並び立たず」と軽いノリで書かれています。おそらくこの言葉から、後々広がったのではないかと思います。

志垣先生自身も教育者であり、「池袋児童の村小学校」という小学校の創立者の一人です。途中で中心になった方が亡くなり学校はなくなってしまうですが、新教育については大変造詣の深い先生です。この春、明星学園の創立100周年の式典があったと聞いていますが、新教育の学校というのはできて潰れてしまうことが多々ありました。トットちゃんの学校、トモエ学園もなくなります。そういった中で玉川学園も明星学園も100年を迎えます。これはもうすごいことなんだと思います。

5. その後、約半世紀の友情

赤井先生は成城を去りますが、そのことについて新教育の研究者である中野光先生が、「赤井と小原とのその後の人間関係には怨念らしきものは残らず、ふたりは再び相互に敬愛する友人同士にもどっていった。これは赤井のさわやかな人柄と小原の人物のスケールの大きさによる」と『教育改革者の群像』という本に書いています。

● 赤井、明星学園創立

二人についてもう少し触れていきますと、明星学園の創立は1924（大正13）年5月、赤井先生が37歳の時です。ここで一番に挙げていたのは、やはり「個性尊重の教育」です。

創立同人の4人の先生たちが新しい学校を創ろうという時に、資金をどう工面したかと言うと、成城の保護者の中に4人の創立同人の教育理念を支持する方々がいらしたからです。

「本当に必要なお金を神様がくれるんだ」という話を小原先生は本間俊平から何度も聞いていましたが、その通りだったのです。赤井先生を支援する人が現れてそして学校ができます。新しい学校の第一理念が「個性尊重」、今でもインターネット上のホームページに一番最初に出ています。やはりこれは成城の流れを汲む学校であるからこそです。

100年前からの創立の理念が今も続いている。それは当たり前ではなく、奇跡に近いことなのではないかと思っています。

● 小原、玉川学園創立

1929(昭和4)年、小原先生が42歳の時に、やはり成城と同じ「個性尊重」を第一に掲げながら、プラス労作教育、宗教教育ということでは玉川学園を創ります。



1924(大正13)年5月15日 37歳
赤井米吉 明星学園小学校創立 照井夫妻と山本徳行の4名

個性尊重の教育／自主自立のひとたらしめる教育／自由と平等の教育
『明星誕生ものがたり』 照井猪一郎



1929(昭和4)年 42歳 小原國芳 玉川学園創立

個性尊重／自然と親しむ教育／心情の教育／科学的研究を基とする教育
＋
労作教育／宗教教育

成城学園でも労作教育をしていましたが小原先生は、さらに力を入れたかった。自活する学生を育てたいんだという気持ちから、玉川学園を創立しました。

●赤井 新教育啓蒙に邁進

先ほど中野先生の言葉で、二人の間に怨念はなかったとありましたが、実際に赤井先生は辞めた後も成城学園機関誌『教育問題研究』に論文を6本書いています。そして玉川学園機関誌『全人教育』などには戦前3本、戦後7本書いています。

小原先生が1930(昭和5)年に出した『日本の新学校』に、赤井先生についてコメントしています。「赤井君は金沢の出身で広島に学び・・・秋田の附属主事となり、それから成城で数年働いてもらって、遂に明星学園を創立したのです。熱心なクリスチャンでボーロをおもはせるやうな情熱の人であり、意志の人・・・ダルトンプランの深い研究者であるため、指導法の工夫や、教材の選択などまで、他の新学校よりは一頭地拔き出ているやうに見えます」とほめちぎっています。

●小原 新教育啓蒙に邁進

小原先生はどうかといいますと、玉川学園創立の目的は成城教育に加えて宗教教育、労作教育を行うことでした。その労作教育の研究のために、日本国内だけでなくアメリカや樺太や満州からも玉川学園を訪れていました。それについて『近現代日本の教育』に「小原國芳の玉川学園は・・・大衆の子どもにも目を向け、労作中心の生活教育を主張し、戦時体制化されていく時代のなかでも活動を続けた・・・。作業教育、労作教育は大正期の新教育運動とは異なる運動として当時の教育界で盛んに行われた」とあります。

●山あり谷あり

こうしてみると、2つの学校は順調にいったように見えますが、決してそうではありませんでした。赤井先生は明星学園で澤柳精神をもとに教育研究に取り組み、明星版『新読本』は国定四期『国語読本』に大きな影響を与えます。しかし、戦後1946(昭和21)年11月、戦前の大政翼賛会での活動に対して、教育職員適格委員会にて不適格判定を受けてしまいます。言い訳をすることなくそれを受け入れます。当然ながら明星にいらなくなり、復帰したのは1953(昭和28)年でした。

小原先生はどうであったか。

労作教育の第一人者として、日本国内だけでなく満州にも呼ばれて何度も講演をしていました。1943(昭和18)年、興亜工業大学を創りますが、その時に収賄容疑で半年間拘留され、やはり公的なことから外れてしまいます。

玉川学園の理事に復帰し学長になったのは1952(昭和27)年です。そして1954(昭和29)年に理事長になります。赤井先生も小原先生も大体同じ時期に理事長に復帰していますが、決して平坦な道ではありませんでした。山あり谷ありの学校経営でした。

●明星学園30周年の式典にての小原

小原先生が明星学園30周年の式典で挨拶をしたときの話です。「小原玉川大学学長登壇するや理事長は、ユーモアたっぷりで学長を紹介する。ところが学長の声がない。見ると学長は目に涙をいばいた

たえて幾度も幾度もハンカチーフで涙をふきながら立っている。やがてようやく学長は、親友赤井君の為にと言いながら、感激と熱誠



明星学園30周年の式典での
小原國芳先生
1954(昭和29)年6月 67歳

のこもった祝詞をのべはじめたが、声は時々かすれる。誠の力はおそろしい。聴衆の目にもいつか銀涙が光り、腰をのりだして学長の話に聞き入る……。」と『明星学園PTA会報』創立30周年記念号に書かれています。

● 赤井、小原の参院選挙運動に没頭

1956(昭和31)年、小原先生は参議院議員に立候補するも落選してしまいます。明星の年誌によると、その時の選挙運動に赤井先生が没頭したと書いてあります。きつと学校そっこのけで選挙運動をしていたのではないのでしょうか。

1957(昭和32)年にはウォッシュバーンが来日して、ここに一緒に写真に写っています。なかなかいい写真だと思います。

● 玉川学園30周年記念誌 赤井は語る

そして1960(昭和35)年に玉川学園でも30周年の記念誌が発



赤井、小原の参院選挙運動に没頭
1956(昭和31)年7月 69歳

小原、参議院選挙全国区に出馬落選
赤井、参院選挙運動に没頭
小原は赤井の創立した「ふじ幼稚園」で度々講演

1957(昭和32)年 70歳

米国ウォッシュバーン博士来日時のふたり
(後列左から3人目、4人目)

行されます。その中に赤井先生が書いています。「もう五十年もむかしのことになった。明治40年4月、小原兄(当時鯉坂君)が広島高師へ入学し、下中町の日本キリスト教会へ出席せられた時會つたのが、二人の交わりの始まりである。……いわば教会がとりもつ縁であつた。『摂理』といつては恐れが多いが、われわれ自らのほからいでできた仲ではない。広島高師に『光塩会』という学生YMCAがあつた……われわれの仲を考える時、この会ぬきにしては考えられない……光塩会をさかんにしたのもわれわれの努力であつたが、光塩会からもっとも多くものを学んだのもわれわれであつたらう。」

やはり神様が引き合わせた関係だつたのではないのでしょうか。

● 赤井創(赤井の孫)の語る「祖父と小原先生との思い出」

さてこういった赤井先生と小原先生との関係について赤井先生のお孫さんである赤井理事から直接話を聞くことができました。

「小原先生と祖父は囲碁が大好きでした。こちらの家によく小原先生が来られて、長い時間囲碁を指しながら話もされていたようで、お帰りになる際もまだ話が続いて、玄関での立ち話が続いていました。大笑いしながら別れるときが多かったのですが、時には大喧嘩をして二度と会わないような雰囲気の時もありました。

でも、それほど間をおかずにまたおいでになり、いつもと変わらない感じでしたから、特別な間柄だったのだと思います」

やはり身近なところで見ていた方ではないと語れない事ではないかと思えます。

● 赤井米吉逝去

1974(昭和49)年、赤井先生が亡くなられた時に小原先生が書いた追悼文を玉川の『全人教育』の中で見つけました。「赤井米吉君御昇天 二十七日、成城小学校時代、数か月間、手伝ってもらいました。仲たがいにもなりました。よく玉川までこられて、男泣きに泣きながら憤慨談してくれました。ポーロのような人……」

ポーロは新約聖書に出てくるパウロです。殉教者ですが、それになぞらえて、新教育の伝道者として生涯を捧げた友への賛辞の言葉

であったと私は受け取っています。

玉川学園での写真です。



昭和40年代 晩年 赤井と小原 玉川学園にて

おわりに 両雄並び立つ

赤井と小原はともに新教育の普及啓蒙に生涯をかけた

成城小学校で共にした短い時に軋轢はあった

しかし、ふたりの仲はそれで途絶えることはなかった

ともに理想の学校を作り上げ、百年を迎える

キリスト教の信仰を通して、

互いに理解し支え合う、羨ましいほどの堅い友情で結ばれていた

天国にて、碁をうちあっていることでしょうか

赤井米吉と小原國芳、

刎頸の朋友にして両雄並び立っていた

これで私の話は終わりになります。

最後までお聞きくださりありがとうございました。

総合司会 土屋副校長

ありがとうございます。本来であれば、時間の許す限り質問というところではありますが、時間がいっぱいになりました。あらためまして白柳先生に大きな拍手をお願いいたします。



白柳弘幸氏 プロフィール

玉川学園小学部教諭を経て玉川大学教育博物館学芸員、玉川大学教育学部全人教育研究センター研究員。
現在は玉川大学学術研究所特別研究員。



第2部 座談会

『大正自由教育の現在、 そして未来』

パネリスト

高橋 丈夫 (成城学園初等学校校長)

笹間 俊彦 (成城学園初等学校副校長)

照井 伸也 (明星学園小学校校長)

平野 康弘 (明星学園中学校・高等学校校長)

渡瀬 恵一 (玉川学園理事)

橋本 暁 (和光学園中学・高等学校校長)

横山 豊治 (清明学園初等学校校長)

高橋 和也 (自由学園前学園長・現最高学部(大学部)長)

鬼澤 真之 (自由の森学園理事長)

進行

堀内 雅人 (明星学園中学校元副校長)

総司会 土屋

これより第2部を開始いたします。只今ご覧いただいた動画『明星学園100年のあゆみ』は、高校生制作のアニメに今昔の学園の校舎や通学路の風景を並べ、学園資料室が制作したものです。BGMは本校の卒業生でバイオリニストの増田太郎さんをお願いいたしました。現在、学園公式ホームページの「明星学園公式YouTube」よりご視聴いただけます。

7名の先生方をご紹介します。拍手でお迎えください。

成城学園初等学校校長 高橋丈夫先生

成城学園初等学校副校長 笹間俊彦先生

明星学園小学校校長 照井伸也

明星学園中学校・高等学校校長 平野康弘

玉川学園理事 渡瀬恵一先生

和光学園中学・高等学校校長 橋本暁先生

清明学園初等学校校長 横山豊治先生

自由学園前学園長・現最高学部(大学部)長 高橋和也先生

自由の森学園理事長 鬼澤真之先生

進行は、明星学園中学校元副校長の堀内雅人が担当いたします。

1. 大正自由教育の流れを汲む7校の「現在」

進行 堀内



それでは、よろしく願います。今回は、大正自由教育、児童中心主義の流れを汲む7校の先生方にお集まりいただきました。大変短い時間ですが『大正自由教育の現在、そして未来』について、どのように創立理念を継承し、実践していraftしやるのか。4分くらいで順番にプレゼンをしていただきたいです。会場の皆さんには受付でパワーポイントの資料、各学校の資料をお渡ししました。どうぞ参考になさってください。早速ですが、成城学園初等学校校長の高橋さん、よろしく願います。

成城学園初等学校 高橋丈夫校長



成城学園初等学校校長の高橋です。どうぞよろしく願います。まずは明星学園100周年おめでとうございます。

それでは、本校の今、それから創立理念がどのようななかたちで引き継がれてきたかをお話させていただきます。

成城学園初等学校は、先ほど白柳先生からお話がありましたけれども、大正6年、今から107年前に現在の東京都新宿区に1年生26名、2年生6名の合計32名の児童でスタートしました。その後1925年、今からちょうど100年前、今の場所に移ってきたという学校です。

4つの希望理想



- 個性尊重の教育
附・能率の高い教育
- 自然と親しむ教育
附・剛健不撓の意志の教育
- 心情の教育
附・鑑賞の教育
- 科学的研究を基とする教育

希望理想の具現化について

- 個性尊重の教育
附・能率の高い教育
⇒ 一斉指導と個性尊重の“いいとこどり”
彫塑・工芸・絵・劇・城・遊び・散歩・舞踊
・半数授業

希望理想の具現化について

- 自然と親しむ教育
附・剛健不撓の意志の教育
⇒ 海の学校(命の教育・遠泳)、山の学校
スキー学校

希望理想の具現化について

- 心情の教育
附・鑑賞の教育
⇒ “心から心への教育”、“文質彬彬”たる人
劇、音楽、美術、舞踊

希望理想の具現化について

- 科学的研究を基とする教育
⇒ 教育改進黨研究会(年1回)
各教科部主催の授業研究会
理科部(ソニー財団 金賞)
数学部(文科省「理数好きな子を育てる探究推進プラン」実施校)

創立の理念ですが、四つの希望理想がありまして、「個性尊重の教育」「自然と親しむ教育」「心情の教育」、それから「科学的研究を基とする教育」、これらを今でも引き継いでおります。附の部分で「能率の高い教育」、それから「剛健不撓の意志の教育」「鑑賞の教育」と言っております。

「個性尊重の教育」、たびたび話題に上がっていますが、附の部分で「能率の高い教育」とあります。これは目前の一人ひとりの児童生徒の能力から発想される教育で、画一的な教育がされていた当時に、そうではなく目の前の子ども一人ひとりをしつかり見て、その子に合った教育をすることです。わかっていることを教えたりすることがないように、そこを省くことで、「能率の高い教育」ができる。その一方で、一斉教育、一斉指導の中でもいいことができると、澤柳先生

はいいとこ取りができるのではないかとおっしゃっていました。

現状では、彫塑、工芸、一般的には図工と呼ばれる教科が三つに分かれていたり、劇、城、遊び、散歩、舞踊、それからクラスを半分に分けて行う授業などで、子ども一人ひとりをしつかり見えています。

「自然と親しむ教育」、附は「剛健不撓の意志の教育」になります。こちらは海の学校や山の学校、スキー学校などで、ただ自然に親しむだけではなく、自然教育に力を注いでいく中で、何があっても自分の目的が達成されるまでやり続ける強い意志の人となる素地を作っていくと今現在も進めています。なかなか難しい部分もありますが、海の学校では命の教育ということで遠泳したり、山の教育では3000メートル級の山に登ったりしています。

そして、「心情の教育」、附は「鑑賞の教育」です。「何よりも学校の

VUCAの時代

- V** (Volatility: 変動性)
- U** (Uncertainty: 不確実性)
- C** (Complexity: 複雑性)
- A** (Ambiguity: 曖昧性)

- 自己認識(やりぬく力、自分を信じる力、自己肯定感)
- 意欲(やる気、集中力)
- 忍耐力(ねばり強く頑張る力)
- セルフコントロール(自制心、理性、精神力)
- メタ認知(客観的思考、判断力、行動力)
- 社会的能力(協調性、思いやり)
- 対応力(応用力、柔軟性、失敗から学ぶ力)
- クリエイティビティ(創造力、工夫をする力)

先生というのは子どもを愛する人間であること、それが条件である」と澤柳先生はおっしゃっています。心から心への教育を通して子どもたちの心が育っていくことを目指しています。

「鑑賞の教育」は澤柳先生の文質淋々たる人を育てたいという理想によって、内面の素晴らしさが外面にも表れるようなことを心がけながら、音楽や美術を行っていきます。

最後が「科学的研究を基とする教育」になります。

今、初等学校では教育改革研究会を年に一回開催し、全国の先生方からご意見をいただいています。それから、各教科毎主催の教育研究会をしています。

理科部は昨年ソニー財団で金賞をいただきました。数学部では今年度「理数好きな子を育てる探求推進プラン」で、文科省の実践校になっています。そのように目の前の子どもを見て、ただの教材研究や独りよがりではなくて、研究自体が子どもに寄り添い、世に問いながら多くの意見をいただき、さらに研究を進めている学校です。

最後になりますが、子どもたちが生活している今の時代は、「^ブVUCAの時代」と言われています。四つの希望理想は、VUCAの時代を生き抜くのに必要とされる力と密接につながっているのではないかと思います。大正自由教育の流れを継いでいて、その頃大切にしていたものを今も絶対に役立てていく、これからも大切であると考えています。

*

明星学園小学校 照井伸也校長



明星学園の照井です。1924年、今から100年前に成城小学校から分かれて、明星学園としての第一歩を踏み出しました。30代後半の若き教員たちの決意、新しい学校を創るという決意に関しては、並大抵のものではなかったのではないかと思います。

1、2、3年生合わせて、21人の小学生と4人の教員でスタートしましたが、開校日は今日と同一ような雨で、本当に参加者が濡れながら式を全うしたということでした。

成城小学校から受け継いだものはたくさんあります。それは「個性尊重」「少人数制」「男女共学」「自然に親しむ教育」「科学的研究を基とする教育」です。これは先ほどの成城学園のお話とつながっています。その中で「自然に親しむ教育」として、まず学校を自然豊かな場所に建てようということで、井の頭の日を選びました。

都会のもやしっ子にならないように、初期から登山などの行事を

成城小学校との別れ ～明星学園としての第一歩～

30代後半の若き教師たちの決意

- ・1,2,3年生合わせて21人の小学生と4人の教員でスタート
- ・構想として1学級30名の定員を目指した

成城小学校から受け継いだもの

- ・個性尊重
- ・少人数制
- ・男女共学
- ・自然に親しむ教育
- ・科学的研究を基とする教育

自然に親しむ教育

都心ではなく、自然豊かな場所に学校を！

都会のもやしっ子にならないよう、
登山などの行事を意図的に導入。

伝統的な海と山の行事

- ・小学校は臨海学校が中心→千葉県千倉町での行事
→遠泳だけではなく磯の生物も観察できるよう探し歩いて決めた土地
- ・中学校は八ヶ岳登山や民泊行事が中心
→自然・人と親しむ

科学的研究を基とする教育

児童中心主義

- ・常に目の前の児童の現状を把握
- ・その現状に即した教育を考える
- ・「いかに」教えるかだけでなく、
「何を」教えるかも研究対象にした
- ・カリキュラムの自主編成
- ・教材はもちろん、必要に応じて教科書も作成する

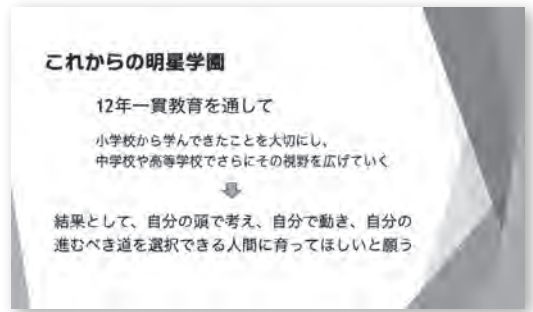


いまだからこそ大事にすること

- ・本物を見せるためには外へ出ることを厭わない
火山学習の後は伊豆大島へ行き、噴火口を見学
「してみる計画」「卒業研究ボランティア」
- ・手作業を通した学びを重視
算数ではタイル操作から 総合のくぎ打ちや小刀の使用
石器や土器、鉄も作ってみる
- ・時には絵本そのものを教科書に
検定教科書に切り貼りされた絵ではなく、絵本の絵から学ぶ

意図的に導入し、今でも山と海の行事は伝統的に続いています。特に海の生活を経験できる場として、遠泳だけではなく、磯の生物なども観察できるような土地を探し回ったという話を聞いています。次に、「科学的研究を基とする教育」です。それも「児童中心主義」であり、それは常に目の前の児童の現状を把握しなければならず、その現状に即した教育を考えることが重要だということです。それから、いかに教えるかだけではなく、何を教えるか、これも研究対象にしました。そのためには、カリキュラムは自主編成していくしかないだろうと、教材はもちろん、必要に応じて教科書も作成す

るということを実践してきました。その教科書は先程白柳先生のお話にもありましたが、『新読本』というものです。ただ、カリキュラムの自主編成というのは独りよがりになってはいけないということで、常に公開するということを基本にしました。「個性尊重」「自主自立」「自由平等」、この建学の精神を基に、カリキュラムを自主編成してまいりました。今だからこそ大事にしなければいけないこととして、やはり本物を見せるとか、手作業を通すとか、時には絵本そのものを教科書にすることも大事だろうと思っています。



最後に、これからの明星学園ということですが、明星学園は大学がないからこそ、12年一貫教育によって小学校から学んできたことを大切にして、中学校や高等学校で更に視野を広げ、自分の頭で考え、自分で動き、自分の進むべき道を選択できる人間に育ってほしいと願いながら、日々実践を行っています。

*

玉川学園 渡瀬恵一理事



明星学園100周年おめでとうございます。
玉川学園の渡瀬でございます。

玉川学園は、子どもたち一人ひとりの夢を実現する学校として、小原國芳が成城学園から分かれて1929年に創立しました。教育理念は創立以来変わらずに「全人教育」です。「学問、道徳、芸術、宗教、健康、生活」の全方位360度成長を目指す教育です。

この「全人教育」を筆頭に、「個性尊重」「自学自律」「能率高き教育」「学的根拠に立てる教育」「自然の尊重」「師弟間の温情」「労作教育」「反対の合一」「第二里行者と人生の開拓者」「24時間の教育」「国際協力」という12の教育信条が創立以来今も大切にされています。この

中には成城から引き継いだものがたくさん含まれています。学校制度ですが、子どもの発達段階と学びの連続性を重視して、2006年度から4・4・4制、2021年度からは5・7制をとっています。その中に英語で学ぶことを重視するEPCクラスや、それにつながる国際バカロレアクラス、また日本語で学ぶクラスには習熟度別や進路別のクラスが設置され、子どもたちは自分の夢の実現に向けて、それぞれが望む形での大学進学を目指しています。

玉川学園では、創立以来、本物に触れる教育を大切にしています。創立の翌年1930年

には当時世界一のスキーヤーのハンデス・シユナイダーをオーストリアから招聘して、その翌年にはデンマークの体操チームを招きました。その伝統は今日にも活かされています。次ページ③左上は小学生が大学の養蜂場でミツバチの観察をしている様子です。ベルリンフィルが日本公演をする年には、数名が毎回玉川に来園し、子どもたちとコラボ授

玉川学園は変わります 玉川学園は変わりません





小原國芳

明星学園創立100周年記念シンポジウム2024 2024.8.30

玉川学園 渡瀬恵一

業をおこなっています。左下は演奏に合わせて4年生が感じたままを描いている様子です。

学年や教科の枠にとられない教育活動が大切にされているのも創立以来の伝統です。④左上は道徳と学級活動、体育を融合させた玉川アドベンチャープログラム。右上は2年生が農学部で田起こしから米の収穫までを体験し、大学の陶芸教室で焼いた各自自作の茶碗で収穫した米を味わうまでを学ぶ総合学習です。左下は、高校生が小学生に読み聞かせをしている様子。右下はSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の課題研究の実験を大学教員の指導のもと、大学の施設設備を利用して行っている様子です。

12信条に国際教育の項目があるように、世界とともに学ぶことも重視し、年間約300人の生徒を海外研修や留学に派遣、約200名を受け入れています。⑤参照

教育理念

■全人教育
学問、道徳、芸術、宗教、健康、生活の全方位360°成長を目指す教育

■12の教育信条

- ① 全人教育
- ② 個性尊重
- ③ 自学自律
- ④ 底層高き教育
- ⑤ 学的根拠に立てる教育
- ⑥ 自然の尊重
- ⑦ 国際性の涵養
- ⑧ 労働教育
- ⑨ 反対の合一
- ⑩ 第二進行者と人生の開拓者
- ⑪ 24時間の教育
- ⑫ 国際教育

①

K-12 一貫教育

Kindergartenから12年生まで
2006年～ 2021年～
K-6-3-3 → K-4-4-4 → K-5-7
発達段階と学びの連続性を重視した学校制度

全人教育

②

ホンモノに触れる教育

③

教科や学年の枠にとられない教育活動

④

世界とともに学ぶ

年間約300人派遣 200人受け入れ

交流校 世界中に連携を築いている学校

Round Square 加盟校 (玉川学園は2005年に日本で最初に加盟) 39カ国、230校

IB Learner Profile

探究する人
知識のある人
考える人
コミュニケーションができる人
自信をもつ人
心を開く人
思いやりのある人
責任ある人
バランスのとれた人
振り返りができる人

Round Square

Internationalism
Democracy
Environmentalism
Adventure
Leadership
Service

⑤

「24時間の教育」は、創立当時とはずいぶん形が変わっています。放課後午後6時まで、子どもたちはスポーツや音楽、プログラムなど17種の講座に参加する体制が整い、8割を超える園児児童が何かに参加しています。17講座のうち11講座は卒業生のプロによる指導です。

また、児童生徒はいつでもどこからでもオンライン授業を受けることができる時代になりました。玉川学園は創立以来変わってはいけない部分は変わりません。しかし、時代の変化に伴って変わべきは勇気を持って変化をしています。

和光学園中学・高等学校 橋本皖校長



まず、明星学園100周年おめでとうござい
ます。イベントにお招きいただきお会いできる
ことをうれしく思います。

和光学園は成城から分かれて1933年に創
立されました。他の学園と違うところは、父母が学校を創ったとい
うことです。中でも中心になった引重さんというお医者さんが戦
後長いこと和光の面倒を見てくださいました。

後に出てきますが、明星との関係もありました。和光学園がどう
いう学校かといいますと、「理想の新学校」ということで、「定員が少
なくて、個別的に手が届く、健康に恵まれた学園」、先ほど明星も郊
外にということですが和光も郊外にということでした。今は世田
谷区の住宅地の真ん中になってしまいましたが、皆さんのお話を聞
いていると、共通するものがたくさんあるなと思っています。

学園の設立趣意書には小原先生を擁立してと書かれています。
言うなれば、第二の玉川学園です。要するに小原先生の支持派で玉
川学園まで小学生の子どもを通わせるのが大変な人が、「何とか学
校を」ということで創りました。初代と二代目の校長先生は、小原
先生の紹介で置かれています。教員が自分たちの意志で創った学
校ではないわけです。

そういった経緯でスタートしますが、芸術教育の重視や、体験や
現場から学ぶということは共通していて今も続いています。これは
中学校時に行く秋田学習旅行の写真ですが、農家に3日間通って
農作業の体験をします。3日間通うという学校はそんなにたくさ
んないと思っています。(左ページ上段上)



動員されていたということを知ると、朝鮮半島出身の方の名前など
も加えられていることもわかります。(左ページ上段下)

実は和光は戦後、先生が一人もいなくなり、児童もいなくなると
いう存続の危機に瀕します。では敷地と学校施設をどうするかと
いう時に、明星の赤井先生のところへ先ほどお話しした引重さんが
行つて、「和光を引き取ってもらえませんか」という話をします。と
いうのは、引重さんの息子さんが明星学園の中学校に通っていたの
です。そこで赤井先生が、息子さんと呼んでくれて、「学校なくなっ
ちやたらどうなの」と聞くと、「それは嫌だな」と答えたので、引重

それから、高校2年
生では研究旅行があ
り、これは長崎ですが、
想像つく方もいると
思います。三菱のマ
ークの底の部分です。今
長崎大学のあるところ
は三菱兵器の工場
で、そこに亡くなられ
た方の名前が刻んで
あるのですが、見ると
女子の名前がすごく
多いのです。つまりそ
こで実際に見ること
によって、男性は兵隊
に行つて、女性が勤労

中学 秋田学習旅行



高2 研究旅行 戦争と史跡



さんはもうちょっと頑張ろうと思ひ、戦後学校が再開することになります。

和光は戦後1950年にコアカリキュラム連盟の実験学校になりますが、大正自由教育の精神とはやはり実験学校、ラボラトリースクールということかと思っています。これはアメリカの教育学者ジョン・デューイの流れを汲むということになります。先ほど照井先生のお話にあったように、実験的なカリキュラムを和光も実践しています。

もう一つ戦後ジョン・デューイから受け継いだものがあるとすれば、それは民主主義の定着と平和を求めることを、学校の指針として大きく捉えたことがあると思っています。

*

清明学園初等学校 横山豊治校長



清明学園初等学校の横山と申します。明星学園100周年、誠におめでとうございます。

清明学園の創立は1930年、成城学園の教員をしていた濱野重郎が大田区雪谷の地にも、同じような個性尊重の自由教育を広めたいと降り立ったことから始まりました。皆さんと同じように成城学園からの流れを汲んだ学校の一つです。

濱野重郎は、「子供と共に生き、子供を生かし、子供を通して生きる」という言葉を残しました。我々教員は、この言葉に建学の精神が集約されていると考え、毎日の職員朝礼でこの言葉を唱え、子どもを生かす学校教育を目標に日々実践しています。

本校の特徴としては、初中9年間の完全一貫教育で、1年生から中学3年までの義務教育期間の教育実践です。その9年間で三つの教育期に分け、1年生と2年生を第一教育期、3年生から7年生(中学1年生)を第二教育期、8年生(中学2年生)と9年生(中学3年生)を第三教育期として、それぞれの時期の子どもたちに最も適したカリキュラムで実践しています。特に第一教育期では、総合学習が子どもの個性を最も尊重し、大いに伸ばせる学習だと考え



1930年
成城学園の教員をしていた濱野重郎が、
雪谷の地に清明学園を開校

ています。

その総合学習とは、身近にある材料で遊び道具を作り、それを使って遊ぶ「手作りの時間」、親自然教育として学校の外に出て自然に触れ合う「散歩の時間」、子どもたちにとって読み聞かせは大変重要なものだと考え「文学の時間」、また「映画の時間」や「自由遊びの時間」を設け、できるだけ自由にのびのびと活動させる時間をたくさん行っています。その他にも「そうごう」という時間が別があり、1、2年生が高学年のクラブ活動のように学年単位で五つのグループに分かれ、少人数でさらに自由に活動する時間もあります。低学年では、遊びの中から学習するという考えで授業を進めています。

こうした第一教育期での総合学習の実践結果として2年生の終りには知能検査を行い、全国平均と比べてどのような結果が出るのかを検証しています。その結果、全国平均よりも高い平均値を得る

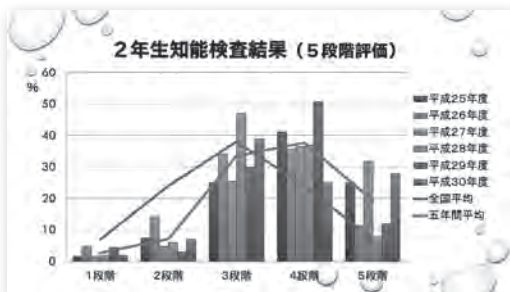
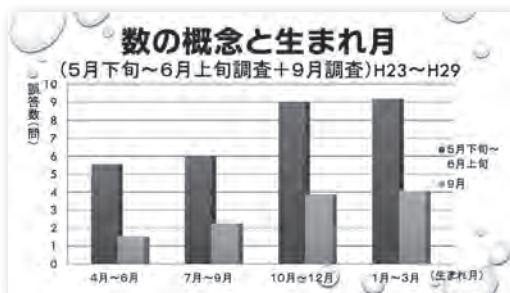
ことができています。この結果は5年生でも同じように高い平均値が出ており、いかに1、2年生での遊びの中の学習が知能を高めるかの実践結果を得ています。

その他、子どもたちの自然成長発達の研究として、1年生入学後すぐに「数の概念」と「読文力」の調査を行い、子どもたちの成長のようすを細かく調べています。その結果、1年生では自然に理解できる数の概念と自然に文章を読むことができる力は、その子の持っている能力に影響されず生まれ月に大きく影響されていることがわかりました。早生まれの子は勿論、10月以降の生まれ月の子は、1年生の1学期の算数は難しく理解できないと考えています。しかし、前に述べたように総合学習の影響により、10月以降の生まれ月の子も2学期には自然に成長が追い付くこともわかっているので、清明学園では2学期から算数を始めています。



学園教育の特徴

- ◇個性尊重の教育
本当の個性尊重とは何か
子どもの目線に立ち、子どもの存在をそのままの姿で認める
『どの子どももみんな違っていいんだ』
- ◇親自然教育
散歩の時間 理科教育 山の学校(浅間寮での宿泊体験)
- ◇和楽の校風
たてわり活動 保護者との連携 一貫教育のよさ





学校受験への指導を徹底し、自学自習という自分で課題を見つけて学習するスタイルを基本と考え、夏休みには『山の学校』という勉強合宿も行います。

以上、私学では珍しい初中の完全一貫教育で、学校生活の全てで子どもが主役と考えて教育実践をしている学校です。

*

子どもたちのさまざまな自然成長発達を科学的に検証し、カリキュラムに子どもを合わせるのではなく、子どもたちにカリキュラムを合わせることに大切と考えています。そのためには「個別学習」を大切に、一人ひとりを細かく見て、今のその子の状態にあった支援をするのが本当の教育だと考えています。また「劇の時間」や「英語教育」、「縦割り活動」にも力を入れ、子どもたちが心から学校が楽しいと思えるような学校作りを目指しています。

9年間での成長を見守っている学校ですので、最後は高等学校を編みました。学校の中に史料編纂室を作り、20年かけてまとめました。

自由学園 高橋和也最高学部長

自由学園の高橋です。明星学園の皆さん100周年おめでとうございます。

創立の理念の継承発展というテーマで自由学園の実践についてご報告いたします。

自由学園は1921年に羽仁もと子・吉一夫妻によって創立され、2021年に100周年を迎えました。創立は池袋、その後、東久留米市に移転しました。池袋に学校ができたのは、創立者がつくった婦人之友社という出版社が池袋にあったためです。

成城学園が1917年に創立され、時代的にはその後自由学園ができますが、まだ本当に新しい学校というのはいない時代に、ふたりの創立者が模索しながら創ってきた学校です。2016年に45歳以上を対象とする学校もでき、現在は3歳から最高齢は90歳の方が学ぶ学校となりました。

3年前に創立100周年を迎え、そのときにこれまでの歴史を振り返り100年史を編みました。学校の中に史料編纂室を作り、20年かけてまとめました。

この歴史編纂とともに次の100年に向かう学校改革を進めるのが、ここ数年の自由学園の歩みでした。同時にこの時期に100人の卒業生にインタビューをして、自由学園で学んだ人たちを紹介するサイトを立ち上げました。2018年に学校改革指針を出しましたが、「キリスト教精



神を土台とし一人ひとりを大切に。自ら学び考える力、協力しよりよい社会を創る力を育てる学園」というもので、これは創立以来掲げられている私たちの目標です。

1921年、自由学園創立前に創立者が次のような言葉を掲げました。「めいめいに自分の生（いのち）のよき経営者であるといふことは、人各々自ら教育するための何よりもよい第一の教科／生徒をして自ら教育することに熱心になるやうに導くことは何よりも大切な私たちの務め／生徒の興味を、否生活を、出来るだけ社会と接触させて行きたい／神を愛したいと思う力、・・・この心を育み育てるために、人間のすべての生活がある」。

これらの力を養うために、自由学園では人間の全体をバランスよく育てることを重んじ、本物に触れて学ぶこと、学校自体を小さな社会として生徒自身が運営するということを大切にしています。

先ほどの新教育、自由教育の実践の中で、私たちの自由学園

自由学園の一貫教育・生涯教育 2024年度より中高共学化 幼～大:816人、LA:138人

0～2歳こっこ広場・プレ

幼児生活園幼稚園
初等部
中等部
高等部
最高学部(大学部)

45歳～リビングアカデミー
生徒の最高齢は90歳!



創立100周年を機に歴史と実践を検証・公開



デジタルアーカイブ
『自由学園100年+』
<https://archives.jiyu.ac.jp/>



『自由学園100年史』
本文700ページ2021年



『本物をまなぶ学校』
島村高津著2021年

創立100周年を機に歴史と実践を検証・公開

自由学園100人の卒業生+
〈卒業生100人へのインタビュー〉
<https://www.jiyu.ac.jp/jgs100/index.html>



〈創立の原点に立ち返り、教育目的を確認〉

2018 学校改革指針

キリスト教精神を土台とし
一人ひとりを大切に。

自ら学び考える力、
協力しよりよい社会を創る力を育てる学園

〈創立の原点に立ち返り、教育目的を確認〉

1921年2月
『自由学園』の創立

めいめいに自分の生（いのち）のよき経営者であるといふことは、人各々自ら教育するための何よりもよい第一の教科／生徒をして自ら教育することに熱心になるやうに導くことは何よりも大切な私たちの務め／生徒の興味を、否生活を、出来るだけ社会と接触させて行きたい／神を愛したいと思う力、・・・この心を育み育てるために、人間のすべての生活がある

〈創立の原点に立ち返り、教育目的を確認〉

自由学園が大切にしている学び

愚想しつつ 生活しつつ 折りつつ
人間の全体（こころ からだ たましい）を育てる

生活即教育＝いのちのよき経営
本物に触れ、生きた知識を身につけること

自発自治
学校を社会とし、協力し社会を創る力を身につけること

としての特色は、教育にキリスト教を掲げているところです。

自由学園の校名は、「真理はあなたたちを自由にする」という新約聖書の言葉からとられています。「真の自由人」を育てるという教育目標を掲げていますが、「自由教育って何だろうか」と考えるときに、一くくりにするのは難しいと思います。

現在のホームページでは「学ぶのは自分の生の使い方」という言葉を使っていますが、与えられた命を生かしてどうやって生きていくかということ学ぶための学校ということ、このような言葉で表現しています。

自由学園は中等教育から始まっています。これもまた自由学園の特徴だと思っています。今年度、創立以来女子・男子別学だった学校が中等部、高等部と共学化して歩みを始めています。自分たちの生活を自分たちで作るということを、創立以来大切に、今も昼食を生徒たち自身が作り、生徒も教師も食卓を囲んでいます。現在は男

女の生徒と一緒に台所に立って食事を作っています。

私たちの最も息の長いプロジェクトとして、1950年に当時の高校生が植林を始め、その木を使って2017年に校舎を建てることができました。森づくりの作業のバトンを渡しながら、自分たちの校舎を自分たちで育てた木でつくることが実現できたことは、とてもうれしいことです。

生徒の感想を紹介します。「自由学園では自分たちで判断するの
で自分の行動に責任が持てるようになったり、先生の操り人形にな
らず行動できるようになった。大人のいうことがすべて正しいと考
えていた小学生の自分より、今の自分の方が私は好きだ。」「私たち
が毎朝礼拝をするのは、一人ひとりが尊いもので、皆同じ地に立っ
ているということを自覚して生活するためだとわかった。」「わたし
たちが学ぶのは、何が本当のことであり、何がよいことであるかを
見極めることが出来るようになるためであると思う。そして自分



自身の中身も『ほんとうのもの』にしていきたい。」

私たちは、生徒たちの言葉で強く励まされています。

*

自由の森学園 鬼澤真之理事長



自由の森学園の理事長をしています鬼澤です。
明星の100周年、本当におめでとうございます。
例えて言えば、ここに並んでいる各学園の方々は、
本家筋にあたる方々です。ちよつとやんちゃで
喧嘩別れして村を離れて、100周年だから戻ってこいと言われて
帰ってきたみたいで非常に座りづらい感じがしています。

自由の森学園ができてからまだ約40周年で、本家筋の方々からし
てみると、本当にベンチャーです。先ほどの話にもありましたが、ばつ
とできてぱつと終わるといふある意味でリ
スクに今もさらされているのが自由の森学
園です。

皆さんの学園が出来たときも自然豊かな
ところでしたが、自由の森学園は自然が多
すぎるぐらいで、熊が出る騒ぎになるとこ
ろです。

今の教室は地元材を使って造っています。
主要な学園のコンセプトについてお話を
します。遠山啓という数学者が唱えた「競
争原理を超える」という観点でコンセプト



を作り、明星学園から遠藤豊ら5人の教師たちが出て創立したのが自由の森学園です。

遠山啓は「人間は多様で序列が不可能だということ」、もう一つは「目標を他者に置くことによって自分を見失ってしまう」と言っている。こういう点数による序列を排する教育をしようというのがスタートの趣旨でした。

具体的に何をしたかという点、一つは授業を変えるということです。記憶量と情報操作のスピードではなくて、対話をし、考え、そして表現をすることを軸にした授業を作っていく。これは明星学園から引き継いだ自主カリキュラムを作っていく営みでした。

二番目は、評価を変えることです。自由の森学園は今も5段階評価のいわゆる通信簿は配っていません。すべての教科の教師がすべての生徒に対して文章で評価するという営みを今も続けています。生徒個々に対する文章による評価というのが、私たちの実践の一つの軸になっています。

もう一つは作品主義という考え方ですが、学びの目標は、授業をしてテストで評価をするのではなく、また作品を作って教師に提出をするのでもなく、一緒に学んでいる生徒たちに対して自分の学びを公開する、こういう作品主義という考え方の授業を行っています。

これが自由の森学園の俗にいう通信簿です。(下図・上)「学習の記録」明星学園でも今も同じ名前で作っていると思いますが、ファイル化してこういう形になっています。

生徒たちが自分の学校生活の3年、6年をこれを持ってきて語る場合があります。子どもたちにとっても重要なものになっているということです。



作品主義としては、全ての教科が何らかの作品をつくることになっていて、右上は社会科の自由作品、真ん中はミツバチとヒトという理科のポスターです。右下は日本語の、国語と言わないで日本語と言いますが、その作品集です。(左図・下)

高校には100の選択講座があります。子どもたちは、かなり多様な選択講座の中から授業を選択し、進路につなげていきます。文系理系というカテゴリー的な選択ではなく、やってみて自分の手応えをきちんと進路に結びつけていくものになっています。かなりの量の選択講座がちりばめられています。ちなみに私はもと

と社会科の教師ですが、現在も林業という授業を行い20年間山仕事をしています。

もう一つの自由の森の特徴ですが、冒頭で理事長のお話がありましたように、どういう社会に向かっていくべきなのかをやはり大人も示す必要があると思います。平和の問題と民主主義の問題も大事ですが、もう一つ、持続可能な社会をどう考えていくのかがやはり重要だと考えており、ESD(持続可能な開発のための教育)を学園の一つの軸にして、実践しているところです。

点数による序列を排するということ

数学者・運山啓の教育論

人間は多様で序列不可能な存在である。

競争の教育は、基準を外部に置くことで自分を見失う。



授業を変える

記憶を目的とせず対話と思考、表現を

評価方法を変える

生徒個々に対する文章に書く評価

学びは作品で表現する

受け身なテストから表現と想像へ

自由選択講座一覧

小論文・朗読講座・演劇講座・思想史と哲学・化学B・物理A・中国舞踊・ソフトボール・声楽・イタリア語ディレクション・陶芸・リデザイン・木版画・英会話・フランス語・サステナラボ・健康心理学・農業・日本文学講座・日本の芸能・粘土彫刻・中国舞踊・韓国講座・東北と復興・数学A・地学・サンバ・英文法・English Communication・板能地域研究・〇〇をーから作る・文章表現・古典探求・世界史探求・日本史探求・森と生きる・中国語・フランス語・数学Ⅲ・染織・生活の用具を作る・政治経済・数学B・数学ⅢC・声楽Ⅲ(オペラアリア)・ZINEをつくる・銅版画・韓国語・生物・Challenging English・ドイツ語・心理学・陸上・美術館を訪ねる・生物演習・English Reading&Writing・Study Abroad・ラテン文化から読み解く幸福論・手縫い・林業・畜舎の現場へ・オペラ・絵画・木彫・保育・パンチを作る・映画製作・英語劇・環境学・カバディ・土曜美術・英文法・英文読解・皮から革へ・現代文・ワールドビースラボ・実験数学・ダンス・型染め・タネ・化学A・リトグラフ

高校100の選択講座

様々な分野を体験し深めることで進路を考える



いろいろな教科の選択講座から授業を選択し、10年後、20年後、30年後の社会をイメージしながら、自分たちで実践していこうという考え方をしています。生徒たちが学ぶだけではなくて、やはり大人もそれをきちんと責任を負うという考え方から、自由の森学園のエネルギーは、現在でいうとほぼ90%自然エネルギーになっているというところまで来ました。

電力は100%ですが、その他化石燃料をできる限り使わないで学園を運営していくことが今の一つの経営的な柱になっています。

「天ぷら油プロジェクト」として保護者や生徒たちが廃油を集める運動をして、学園の公用車を走らせています。この活動が評価され、脱炭素チャレンジカップで自由の森学園が文科大臣に表彰されるという不思議なことがありました。たまにはそういうこともあるということなのです。

2. 「自由」の持つ厳しさ

進行 堀内

ありがとうございます。

この7校を比べてみますと、当然のことですが、共通点がたくさんあります。と同時に違いも見えてきます。なぜその部分を継承している学校があり、なぜそれを変更している学校があるのか。その違いを見ていくと、面白い発見ができると思うのですが、そのためには与えられている時間があまりにも少なく、今回は大正自由教育という大枠の中でご意見を伺っていきたいと思います。どうかご了承ください。

さて、全てのスタートは成城小学校の四つの希望理想から始まっているように思います。先ほど成城学園が最初に出してくれましたが、私は前から「附」というのがすごく気になっていました。「個性尊重」「自然と親しむ心情の教育」とするだけではなく、なぜ附というものをつけたのか。

私なりに感じていたのは、大正自由教育の持つイメージ、つまり「個性尊重」「自由」といった言葉が、それだけでは誤解されたニュアンスで伝わってしまう危険性をはらんでいるのではないかという危

機感です。学外の合同説明会でかつて「自由平等」を掲げた本校のポスターをちらっと見ながら「自由な学校ですって、怖い、怖い」とつぶやきながら通り過ぎていった方に出会い、ショックを受けたことがありました。児童中心主義とは子どもにわがままをさせること、子どもに自由を与えてしまうと学校は荒れてしまう、そんなイメージを持っている人も一定数いるのかと思います、それ以来「自由」について「個性を尊重すること」についてどのように語るか、私にとって大きなテーマの一つになってきました。

ただ、今日のみなさんの発表をうかがっていると、柔らかさの裏側にかなり要求度の高い厳しさというものを強く感じるわけです。遠泳とか、3000m級の山に登るとか、今ではなかなかできないことを続けるということ自体もそうでしょう。でも、多分それは象徴的なことであって、さまざまな点でその厳しさ、自由の厳しさとは何なのか、そのあたりから御発言いただけますでしょうか。

和光学園 橋本

私、自由の厳しさというのは自分で決めなくてはいけない厳しさであると思っています。最近流行りなのが、1から10まで面倒を見てくれて、単語テストまで塾でやってくれて、先生が名前を覚えてくれているという、それで東大受かりましたみたいな大学受験の広告をたくさん目にするわけです。

そんなんで東大受かってどうするの？って率直に思うんです。人に手取り足取りパッケージでやってもらうのではなくて、自分で決めて、自分で選ぶ、それが厳しさなんじゃないかなと思います。

玉川学園 渡瀬

言われたことを周りと同じようにする方が多分楽で、主体性を持って「じりつ」することはなかなか厳しいことだと思います。「じりつ」と言ったときに、自由気ままに自分のやりたいようにというのは違って、先ほど示した玉川学園の12信条の中に「自学自律」というのがあります。小原國芳は「りつ」の字に律するの「律」を使いました。自ら立つ自立のために自ら学び、自らを律するということを強調しました。やはり勝手気ままに自分で立っていけばよいのではないということが教育の根底に定義されているのではないかと思います。

自由学園 高橋

自由学園に教育委員会の人たちが見学に来たことがありました。そのときに、生徒が語った言葉がとても印象的でした。それを紹介すると、「自分は高校から入ってきて、本当に不自由な学校だと思っただ。何でもこんなにルールがない学校なのに、自分たちでルールを決めて生活しているのか、すごく不自由だと思っただけだけれども、この自分たちでルールを決めているということと自分がすごく自由なことだということがわかった。自分にとって自由だと思っていることがみんなにとってどうしたらもつと自由になるかということを考えてなきやいけない学校だということもわかった。そのルールを変えられるということにすごく自由さがあると同時に責任があつて、

4つの希望理想（成城小学校）

○ 個性尊重の教育

附・能率の高い教育

○ 自然と親しむ教育

附・剛健不撓（ふとう）の意志の教育

○ 心情の教育

附・鑑賞の教育

○ 科学的研究を基とする教育

進行 堀内

一人の自由だけじゃないということが社会で実現されることが必要だった」と。私が突然マイクを渡した時に語ってくれたのですが、その自由ということの厳しさと、自分たちでそれをつくっていかないとこの大切さという、「自由の裏には責任がある」と言いますが、自由にはその両方があるのではないかと思います。

ある意味、自由な学校というよりも、自由について考える、思考を深める、そういうことを理解していく中で、先生に言われたことが当たり前ではなくて、疑問を持ちながら自分で考えていくということなのかもしれません。

成城学園 高橋

成城学園は3年生から6年生まで4年間同じクラス、同じ担任です。その中で自由気まま、自由勝手に過ごしているとどうなるかという、自由の裏には責任があるので、必然的にいろいろなものが返ってきます。自分がどう見られているか、自由を学校生活で学びながら、自由の大切さを実感しているのだと思っています。

進行 堀内

明星学園100周年ということで、記念誌と同時に『ひと・もの・こと』が今日発刊されました。この中に創立同人の言葉があり、今

の話の流れでいきますと、初代の中学校校長の照井猪一郎がとても大切なことを言ってます。

明星学園 照井

そうですね。創立同人の照井猪一郎は、「自分の力で自らを守る自主、惜しみなくその力を持ち寄って友達と助け合うことが大事なんだ、他人の自由を無視することは自分の自由性を喪失することになる」と言っています。これは今の小学生に対しても、中学生に対しても、自分が自由にするとはいいいけれど、その自由が友達への自由を奪ってやしないかと、いろんな場面で言っています。そのことは創立期からずっと言い続けてきていることです。

やはり自由をうたうということは、その厳しさ、難しさを教えていかなければならないと思っています。

進行 堀内

同じく照井猪一郎は「のんびり育てたいから明星のようなところをえらんだ」と仰っていたけど、最良にはかたじけないが、そうした語韻からは多くの誤解を撒布するから無条件では感謝ができない」と述べています。

のんびり育てるということを「十分に自覚的であり、自律的であり、自発活動的であり、創造的であらせる教育、それ等から来る明朗な愉快な生活」という意味にお取り下さるのでしたら私達は衷心から感激に堪えない」と言葉は続きます。

大正新教育を語るとき、「自由」「個性の尊重」、あるいは「のんびり」といった言葉にしても、誤解されずにその言葉の深い意味をどのよ

うに伝えるかということがいかに大事なのかと思います。

明星学園 照井

のんびりとしたというところでいくと、小学校の授業は一つのことを議論していくので思いのほか時間がかかります。そうすると、一見進みが遅くてのんびりしているように思われるかもしれませんが、非常に中身が濃くて、かなり高度な議論がされています。

だから、傍から見てものんびりしてるからいい学校ということではなくて、やはりその本質を見て、入っていただきたいと思っています。

成城学園 笹間



澤柳政太郎の教育論を抜粋してまとめた『教育論抄』という本に、このようなことが書かれています(P6〜7)。「・・・澤柳先生が非常に強い言葉を用いている点である。教育四綱領の一つ

目に掲げられた『個性尊重の教育』が重視され、自由で明るい校風が本学園の特徴となっているが、先生が求めたのは、個性の花を咲かせる教育の先に、芯の強い独立独行の人を育成することだったので。グローバル化が進む時代だからこそ、一人ひとりがしっかりとした自分を持ち、どのような時代、環境にあっても未来を切り拓いていける人材を育成しなければならない。先生の強い言葉は、我々にそのことを気付かせてくれる。」と書いてあります。個性尊重の先に独立独行、自由を持ちながらも、責任と義務というものを学びながら自分たちで切り開いていくということは、ある意味厳しいということだと思っています。

3. 「科学的研究を基とする教育」とは？

進行 堀内

ありがとうございます。

私ごとで恐縮ですが、明星学園の教員になった当初、いちばん意識づけられたのが授業における科学的研究という言葉でした。私は国語の教員として文学を教えてきましたが、「文学の科学的研究っていったいどういう意味なのか」しつくりいかず、自分なりの答えを持つようになったのが10年ぐらい経ってからだだったと思います。

ただ、こうだという結論めいたものを聞いたことがなく、各学校でもいろいろな意味の科学的ということがあるのではないかと思っています。清明学園の横山先生からそのような調査をした上でというお話がありました、そのあたりいかがでしょうか。

清明学園 横山

私は、もともと理科教育が専門で、科学的と言われたときには「必ずデータを取りなさい」と学んできました。そのデータから、一般的な理論として、こういう傾向があるということをつかむことが正しいと思います。そういう意味で言うと、私たちがしているのは、数百人のデータから生まれ月がどう影響しているのか検証することです。一人ひとりのデータからだいたいこういう傾向が見られます、文章を読む力もこういう傾向が見られる、だからこういうカリキュラムにするという理論がないと科学的な検証にならないと思うのです。成城学園は昔から研究誌がいろいろありますので、その研究誌から問題を使用し、データを前と比べたりしながら、いろいろと研究

しているのが現状です。

成城学園 高橋

先ほどの『教育論抄』の中に、「教育研究を実際と一致させ、真の意味の研究の学校をもって理想とする」という文章があります。私は数学が専門ですが、教え込んでテストが満点だったからと言って、果たしてそれが本当に分かったことになっているのか。例えば子どもが何か説明したことを別の表現、図でもいいし、身体表現でもいいし、それをしてもらうと一致しないことが多々あります。ということは、我々が子どもに「分かった」姿だと思っているのは、実は子どもに「分かった」姿ではない。ならば何を信じてどう汲み取っていくのか、その辺をしつかり見ていくことが、澤柳先生がさんざん言われている目の前の子どもをしつかり見ましよう、どこどこで生まれて、何を考えているのかをしつかり理解しましょう。そのために何をやるんですか？ 科学的研究とデータを取ったりするのも一つの方法だと思いますが、その辺が大切なことなのかなと考えています。

明星学園 照井

もともと成城学園でも、就学前の子どもたちにこういう調査をしてどのぐらいの語彙を獲得しているのかを調べて、その後の小学校のカリキュラムを決めていたと思います。その考え方を明星も澤柳先生から引き継いで、同じように就学前の子どもたちの語彙調査をしたところ、思った以上に獲得していた。だとすれば、それに合わせたスタートがあるだろうと考え、結果的に、検定教科書ではない教科書の必要性や、独自のカリキュラム作成に繋がったということでは

ないでしょうか。その辺が、横山先生もおっしゃっていましたが、教育を科学的に考えていくということではないかと、私は思っています。

玉川学園 渡瀬

良い授業だったとか、子どもがよい学びをしたのかというのは、教師の感覚的なものによる印象ではないとは思いますが、ただ教師の経験に裏付けられたその印象を完全否定はできないと思います。もしかすると、そこを分析していくことが科学的なのかもしれません。

教育の場合には全てを定量的に分析するということは難しく、数値を読み取るのは簡単ですが、数値で表せない部分をどう分析していくかという定性的な分析が非常に大事だと思います。

進行 堀内

科学的な研究、裏づけは当然大事だと思いますが、一方で、成城学園が出している「心情の教育」や、あるいは他校も言われていた生徒同士の関係性、教員と生徒との関係性、そういうものが裏打ちされていないと、科学の理論の積み上げが根底から崩れてしまう、そういった意味では両輪なのかもしれません。

成城学園 笹間

明星さんが先ほどお話しされたことが記憶に残っていて、「科学的研究を基とする教育」を掲げた澤柳が最初に手がけた研究は、児童語彙の調査でありました。その調査は大正7年に行われて、その翌年に『児童語彙の研究』として刊行されています。当時、澤柳は感覚

的に就学前の子どもたちの語彙数は2000～3000語ぐらいだと考えていました。実際に調べたらいちばん語彙数を持つ児童が5362語、少ない子が3500語で、平均すると4089語でした。調査をしたことによって自分の予想よりもかなり多いことが分かりました。それに触発された農村の先生が語彙調査を行ったところ、男児が5002語、女子が5036語という平均が出たそうです。我々の体験は大事だと思いますが、それを裏打ちするためには調査研究が必要だと澤柳は言っているのではないかと思います。

進行 堀内

確かにそうですね。ただ、現代の子どもたちが置かれている状況は複雑です。様々な媒体から情報を手にすることができるようになり、家庭や地域による文化受動の格差が広がっています。そのような子どもたちの状況を科学的に分析することは困難ではあります。ますます大切になってくることでしょう。

そしてもう一点、先ほど明星の教育において常に「科学的」という言葉を意識してきたと述べました。本校では教科を超えた授業検討会を定期的に行っています。どの教科にも共通する視点は、自分の考え・仮説を大切にすることなんです。間違えを恐れず発表してほしい。ただし、その理由や根拠を述べることを求めます。それが対話のスタートになります。つまり、先生の言うことが全て正しいということではなく、根拠について議論し、確かめることを通して結論に近づくという手法が授業においては「科学的」であると感じています。そのような授業場というのは教師を含め、ある意味平等であり、共同研究の場になり得るのではないかと思います。

4. 「教育」と「理想社会」

もう一つ気になることがあります。

7校の特徴として、いわゆる既存の社会が求める人材を育成するのではなく、理想とする社会を掲げて目指しているという特徴も強く感じました。

そのための教育、そのための学校生活かと思えます。だからこそ主体的に教育実践が研究継承されてきたという印象を持ちました。照井猪一郎が言っていますが、(下図参照)教育についての理想と、それから社会「解放された自由と平等、人類愛に基づく世界の平和。拘束されることのない自主自立の明朗で強固な社会生活の建設」、このように教育と社会はつながっているわけです。

各校のお話の中でも「平和な社会」、あるいは「管理と競争からの解放」といった理想社会を表す言葉が示されました。ただ、現代社会における現実のあり様との間には当然のことながらずれが存在します。そのような現実の中にあつてどのような実践が具体的にされているのか説明していただけの方、いらっしやいますでしょうか。

自由の森学園 鬼澤

今の質問にストレートに答えるものではないかもしれませんが、多分、競争のない社会は簡単に創出できないと思います。どこまで

明星の理想—明星を生活する— 照井猪一郎

【教育】個性尊重を基底とし、自主自立と自由平等を二辺とし、人間完成を頂点とする教育

【社会】解放された自由と平等、人類愛に基づく世界の平和。拘束されることのない自主自立の明朗で強固な社会生活の建設

「社会立」の学校

いつでも競争は残るだろうと思います。とはいえ、どの段階で子どもたちが競争に入っていくのがふさわしいのかということは、やはり考えなければならぬ問題だと思っています。中等教育において競争をさせるのが是なのかという議論もありますが、やはり個として尊重される教育を受けた子とそうではない子の

のその後の生き方は、全然違うだろうと感じています。ですから、そういう意味では、早期から競争をさせるということがよいのではなく、自我が確立されて、ある意味で自ら進んで競争に入っていくという覚悟が決まるところからその子が動けばいい。学校教育はそれを後押しせず、できる限り競争から距離を置けるようにすることが、その次の社会を担っていく子どもたちを育てるのにプラスになると感じています。

目標は一人ひとりが大事にされる世界をどう構築していくのか。本人の意志とは別に、外側に何かの尺度があるから競争が起きるのですが、子どもが本当に大切にされる社会、人間が大切にされる社会ということとをイメージした場合に、競争をいつからどの程度までするのがやはり問われてくる。そういうイメージを持ちながら教育の仕事をしているということですね。

自由学園 高橋

今の鬼澤さんのお話にはとても同感です。

自由学園では先ほどお話ししたように、生徒たちが生活のいろいろな場面で役割を担っていて、例えば雑巾を管理する委員や、掃除

用具を管理する委員、ごみの処分を管理する委員など、加えて寮生活の中でもありとあらゆる責任を担っています。自由学園に高校から入ったある生徒が3年間生活しながら何を感じたかというところ、「自分がみんなに支えられていた。自分の生きているこの生活は誰かが知らないところでやってくれていることで成り立っていたんだということがわかって、その中で自分も与えられた責任を果たしていくうちに自信が持てるようになった。助け、助けられている生活がわかった」と。最後、その生徒が50日間、委員という役割に付く前に、「自分は自分を殺して生きてきた中学時代だったけれども、自由学園に来て自分は生きていいんだということがわかった。最後の50日を自分はみんなのために捧げたい」という言い方をしました。それというのは、やはり誰かのために自分が生きているということを実感できる、誰かが自分を支えてくれているということを実感できる。あの人より上に行くとか、見下すとか、優越感に浸るとか、劣等感ということではなく、支え合う経験を学校でどれだけ実感としてできるかということで、本当に自分は生きているし、自分も誰かのために役に立ちたいと思えるのではないのでしょうか。

ですから、生活の中でその支え合いが自然にできていると、「世の中どうせ競争でしょう」ということではなくて、根本的に助け合うことで自分を生かすということを知っていくと思います。先ほどの100人の卒業生のインタビューで多くの卒業生が自分は支えられて生きてきたし、誰かを支えていきたいと言っているのも、やはり若い時期にその喜びを経験したことがとても大切だったのではないかと私も思っています。

成城学園 高橋

今の自分は支えられているというお話をうかがって、全く同感です。成城では劇教育があり、子どもたちは舞台に立って劇をしますが、ミュージカルの要素があり、歌も歌います。

そうすると、効果音と歌で誰かの台詞が聞こえなくなってしまうことがありますが、そのときにどうするか。多分、相手のことや周りのことを考えないとそこで止まってしまい、誰かが責められてしまうことにもなりかねませんが、そうはならない。全員が劇中のセリフを全部覚えていて、誰かが困ったときにも、次のセリフが合いの手のように出てきます。そうして流れていきます。終わったあとに、「あのときはありがとね」という言葉が交わされます。

それが3年生、4年生、5年生、6年生と続いていく中で、「あ、この間はあいつに助けられたよね。」その子が実は他の授業のときにはグダグダだったりするんですが、「そんないいところもあるんだ」と気づきます。やはり先ほど自由学園の高橋先生がおっしゃっていました、自分が支えられている、生かされている、そういった思いを持てるかどうか、そういった経験をたくさんできるかどうかが大切なのかなと私も思います。

明星学園 平野



話を聞いていて、つくづく共通していると、本当に感動しています。子どもたちがお互いに支え合い、尊重し合える環境を学校が与えられるかどうかというところはすごく大きいと思っています。

自分の考えを聞いてもらえた経験、人の考えを聞いたことによつ

て自分の中に変化を実感できた経験、そういうお互いの関係性の中で自由を獲得していくんだと思います。そうして育った卒業生たちは、どこへ行っても自分の考えをしつかりと言えるようになっていきます。

そういうところが共通していると思います。

和光学園 橋本

和光中学校では、学校の教育目標として、「共に生きる」ということを掲げていますが、まさに今までのお話しに出てきたことのひとつになっていると思います。

個性尊重の中に「私は受けとめてもらえる、あなたのことを尊重している」ということが含まれていると改めて思いました。とはいえ、高校まで行くと現実の世の中は非常に摩擦に満ちていて、考えの合わない輩もいっぱいいるわけです。そうすると、現実の中で生きていくには、考えが合わない時に何とか折り合いをつけていくことなどを、学ぶことが大事になってくると私は思っています。例えば文化祭などで何かを決めるとき、譲れないことが出てきます。そういう中でも対話をして、決めていきます。和光学園でも、いろいろな活動の場で対話ができるようにしています。

5. 新学習指導要領をいかに考えるか？

進行 堀内

そういった理想を掲げ、また社会もそうであってほしいという願いがあったわけですね。ただ、そのずれの中で、時に存続することが

困難な時代もありましたし、閉校を余儀なくされた学校もあったわけです。

ところが、新しい学習指導要領を見ますと、次のようなことが謳われています。「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」、ある意味、我々が今述べてきたようなことに通じます。

それから「個別最適な学び」、一人一人の個性に合わせた学びと読み取れます。さらに、それではコミュニケーション能力が鍛えられないのではないかとといった反論に応えられるよう「協働的な学びを一体的に充実させる」と記されています。

そして「主体的・対話的で深い学び」、一時流行語のように使われていたアクティブラーニングですが、活動はあっても学習内容がないのではないかとといった批判にさらされて全く使用されなくなりました。それと差別化を図るように「深い学び」と表現されています。果たして掛け声だけでそんな学びが全国一斉に実現すると考えるのはあまりにも楽観過ぎると言えるでしょう。私自身最近、「明星の時代が来ましたね」としばしば言われるようになりました。正直、非常に複雑な思いです。「ちよつと待てよ、危ないぞ」という声が自分の中から聞こえてきます。

このあたりについて皆さん、思うことがあれば挙手をお願いします。

玉川学園 渡瀬

私たち私立学校は、教育理念がありますから、その教育理念に基づいて教育することによって、よりよい社会になることを見通してやっています。ただ、学習指導要領というのは、国公立、私立全部を含めたものです。公立の学校でよりよい学校教育をどうしてい

くかというときには、随分いろいろな考え方があると思うので、上よりよい学校教育を通して、よりよい社会を創る」は難しい問題だと思います。

下(主体的・対話的な深い学び)は、この文言を見れば、これは大正自由教育の諸先輩方がおっしゃったことに反することではないと思います。「深い学び」については、知識を暗記したり詰め込まれているのでは、応用可能な知識になりません。

やはり知識が概念化していくためには主体的に学び、それを協働して共有することにより、その知識がより深まって応用可能になっていくので、これでいいのではないかなと思います。「私たち私立学校の時代が来たな」と思っています。

自由学園 高橋

現在の学習指導要領の目標は「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」未来の創り手を育てるということです。素晴らしい目標で、この「学校教育」の部分を「学校生活」に変えると、100年前の自由学園の目標とぴったり重なります。しかし問題は「よりよい社会」とはどのような社会かということです。

第一次安倍内閣は「美しい国創り」を掲げ、愛国心教育を盛り込んだ「教育再生」に乗り出しました。若者のモラル回復のためにと、ボランティア活動の導入も推奨されました。そして第2次安倍内閣

「新学習指導要領」より

◇「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創る」という通念を学校と社会とが共有し・・・

◇「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

では道德の教科化が打ち出され、現在の学習指導要領においてそれが実現されました。

「よりよい社会」というものが、その時その時の政治に主導されたり、経済界に主導されたりすると、○○人材をつくりましょうということになる。国レベルでの方向が示されたときに、私たち教育に携わる者はそこに流されず、「よりよい社会って何だ」ということを考え続けられる子どもたちを育てなければいけないと思います。大学進学や就職実績のみを基準とする価値観の中で子どもたちが社会に対して疑問を持たずにいると、「よりよい社会」ということを考える余地もない子どもたちになってしまうでしょう。そうならないために私たち自身が「よりよい社会とは何か」と考え続けることが大切です。「よりよい社会」という言葉はすぐくあたりのいい言葉なので、気をつけなければいけないと思っています。

自由の森学園 鬼澤

自由の森学園ができた1985年というのは、ある意味で文部行政が自由化が必要だと言いだめた時期です。自由という言葉の中にもかなり多様な考え方があって、今思えば、あの当時の臨教審の自由化とは新自由主義の話だったと、時間を置けばよくわかることなんです。同じように、例えば「個別最適な学び」ということも、もう少し時間が経つともっと見えてくると思います。

私がいちばん言いたいのは、私立はこういう文部行政の言葉に振り回されることが大事だということです。彼らもできる限りあたりのいい言葉をつくろうとするのでしようが、お上がこう言っているからと体裁を合わせるのではなく、我々はやはり理想の教育をもつと下から考えていくという立場に立った方がいいということです。具体的には、やはり教職員がどういう学校を創っていくのか、もしくは生徒たちや保護者たちがどういう学校や教育を求めているのかという議論に基盤を置きながら、自分たちの教育をつくっていくという考え方を大事にした方がいいと思っています。

進行 堀内

今日の全てに通じますが、言葉の表面的なものに踊らされるのではなく、やはり目の前の子どもたちをいかにどう見るか、それに裏づけられたものかどうかが問われるのではないかと思います。

成城学園 笹間

今おっしゃっているところ澤柳も言っていました。教育は流行廃りではないと書かれていたと思います。やはり建学の精神にあるように、目の前にいる子どもたちに対して我々がどういう教育をしていきたいのかが大事だということが書かれていました。

また、これを見たとき、先ほどどなたかがおっしゃったことと真逆なことを言わせていただくと、ある意味我々の建学の精神を模倣しているようにも見えるかもしれませんが、逆に言えば、公立が今私立化していることで、私立の存在意義が問われてくるということです。先日の講演で聞いたのですが、渋谷区の公立小中学校で「渋谷

谷未来化」という、午前中に普通授業を行い、午後全部を総合の授業にする取り組みが今年から始まっています。

そういう形でかなり私学に近いことをしていて、その渋谷の教育委員会の方からの話も直接聞きましたが、逆の意味で我々は危機感を持たなくてはいけない時期に来ていると思います。そうなった場合に、やはり我々が立ち戻るところは建学の精神だと思います。

先ほど言ったように、成城で言えば澤柳政太郎が言っていた目の前の子どもたちを見て、子ども中心主義でいくということは、今の目の前の子どもたちに何が必要かということを、ぶれることなくその時々を考えながらやっていくことがいちばん大事だと考えています。

6. おわりに

進行 堀内

定刻を過ぎてしまいましたが、いかがでしょう。あと6分だけお時間いただけますでしょうか。今、成城学園の笹間さんからまとめの言葉をいただいたように思います。他校の先生からも最後にお一人1分弱で締め言葉をお願いいたします。

玉川学園 渡瀬

まず、教育理念に立ち返ることがとても大事で、やはり教員研修が大事だと思います。玉川学園ではそういう意味で授業研究などもありますが、小原研究をしている大学の教育学部の先生から『全人教育論』を聞きます。それから、幼小中高から何人かず教員を小原國芳の生誕地、鹿児島島の久志へ派遣して、そこで理念について学

び、同時に小原國芳の教育改造のスピリットをディスカッションするという研修旅行を毎年夏休みに行っています。

そういうことを通して、教育理念に立ち返る時間を大事にしたいと思っています。

和光学園 橋本

いろいろお話を聞きながら、共通点はやはり大正自由教育という考えであるということ、改めて関係の深い学校がたくさんあるんだということを確認して、心強く思いました。

最後の議論のところで、公立も同じようなことを言っていますが、では、同じようなことができるかといったら、私は簡単にはできないと思っています。公立は中学受験という限界や縛りがあるので、やはり私立学校ならではの優位性があり、現実的には自由な教育というのは、私立でないとなかなか難しいのが今の日本社会の現状だと思います。

お互い切磋琢磨していききたいと思っています。

清明学園 横山

鬼澤先生、笹間先生、全く同感です。これからは私学の存在が問われていると思います。そのためには公立を否定するわけではありませんが、なぜ今、公立学校でこれだけ不登校児童がいるのか、その他いろいろなことを検証しながら、私学は何のためにあるのか、そして我々は何をしなければいけないのかをしつかり考えていきたいと思います。

自由学園 高橋

大正自由教育の流れにある学校の中には、生徒が大自然にふれながら、主体性と協働性を身につける行事として「登山」を行っている学校があると思います。自由学園では今年も中高生が準備組織を作り、八ヶ岳、燕岳に登りました。

これからの教育の指針を示すごく面白い図があります。「OECDラーニングコンパス2030」です。次の学習指導要領にもこの方向が盛り込まれると思います。

中央のコンパスの下には「生徒エージェンシー」と名付けられた学習者が、背中に荷物を背負って立っています。「生徒エージェンシー」は自ら未知の領域に踏み込む学習者の主体性を指します。その周囲には目標に向かって力を合わせる「コ・エージェンシー（共同主体性）」の姿もあります。生徒一人ひとりが問題の解決者として、仲間と協働しつつ、主体性をもって個人と社会のウェルビーイングの山を目指すという図です。このような学びの方向は、まさに私たちがこれまで取り組んできたことであると思います。

時代は今、知識の詰め込みではなく、学習者である子ども自身の主体性・協働性を引き出し、自ら学ぶ力を育てることに重点を置く方向に大きく動いています。私たちも教育実践の意味をもう一度問い直して、さらに磨いていきたいと思います。また公立でも私立でも、このような学びが推進されるといいと思います。

自由の森学園 鬼澤

100年前にできた大正自由教育運動で我々が学ぶべきいちばん大きなことは何かというと、「子どものために教育をするんだ」

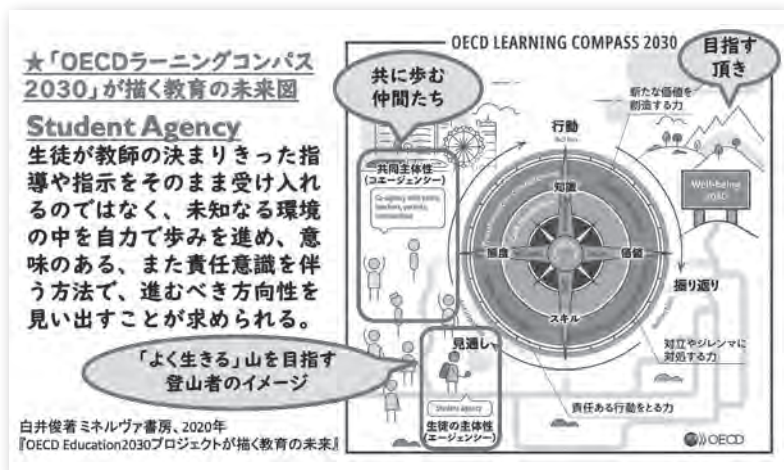
その反対概念は、国家とか経済とか戦争とかを目的とします。そういうものではなくて、「子どものための学校をつくるんだ」という考え方だと思っています。

我々は今、「本当に子どものための学校になり得るか、なり得ているか」を省みるために、一方の文部行政や社会のありように対する、批判的な視点をきちんと持たないと埋没してしまうので、そこを教職員がしっかり学び、考えていかなければならないと思います。もし機会があれば、もう一回やりましょう。

進行 堀内

対話が始まったところという感じですね。先生方、短い時間にもかかわらずまとめたいただきありがとうございます。私自身、このように一つの会場で同じテーマのもと、それぞれの学校のお話を伺うというのは初めての経験でしたが、赤井と小原がそうであったように、我々7校が互いに意識し合うということとはとても大事ですし、刺激し合いながらそれぞれの歴史を刻んでいくことの大切さを感じました。

そういう意味では、これが一回で終わったら本当にもったいないと思います。今後ともよろしくお願いいたします。本当に今日はありがとうございました。



そして、会場みなさん、大雨にもかかわらずお越しいただき、本当にありがとうございました。同じ児童中心主義でありながら、違いもさまざまありますが、本質は同じところを向いている。だからこそ切磋琢磨できるのではないかと思います。時間が短かったために議論を深めるところまではいきませんが、このシンポジウムが大正自由教育について、子ども一人ひとりを大切にするとはどういうことなのかについて深く考えるためのきっかけにいただけたら、こんな嬉しいことはありません。

本日は本当にありがとうございました。

総合司会 土屋

先生方、どうもありがとうございました。皆様、本日は平日のお忙しい中、また雨風が大変強い中にもかかわらずお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。大正自由教育の学校が一堂に会し、私自身、私立学校のアイデンティティあるいは存在意義というものを改めて考えるきっかけをいただいた気がします。

それではこれにて閉会いたします。本日はありがとうございました。

大正自由教育（児童中心主義）の流れを汲む7校

2024年8月30日「明星学園創立100周年記念シンポジウム2024」資料

	校種	創立理念・方針	学園沿革	創業者
成城学園	幼・小・中・高・大・院	4つの希望理想 一、個性尊重の教育（附、能率の高い教育） 二、自然と親しむ教育 附、剛健不撓の意志の教育 三、心情的教育（附、鑑賞の教育） 四、科学的研究を基とする教育	1917年（大6）澤柳政太郎、東京市牛込区（現新宿区）成城中学校の中に私立成城小学校を創設開校 1922年（大11）小原國芳が尽力し、成城小学校内に成城第二中学校を創設開校 1925年（大14）東京都世田谷区の現在地に移転 1926年（大15）旧制7年制の成城高等学校開設 1927年（昭2）5年制高等女学校開設 *戦後の学制改革以降、男女共学の新制成城学園中学校・高等学校を設立 1950年（昭25）大学を開設	澤柳政太郎
明星学園	小・中・高	『個性尊重・自主自立・自由平等』 「社会立の学校」を目指す	1924年（大13）小学校開設 1928年（昭3）中学部（旧制中学校）・女学部（旧制高等女学校）開設 *戦後の学制改革のなか、男女共学の中学校と高等学校に改組され、今日ある小・中の体制となり、12年一貫教育を整えた。	赤井米吉 （成城小学校で出会った4人の教師・赤井米吉・照井猪一郎・照井げん・山本徳行が創立同人となる）
玉川学園	幼・小・中・高・大・院	「全人教育」と12の教育信条 〈全人教育〉〈個性尊重〉〈自学自律〉〈能率高き教育〉〈学的根拠に立てる教育〉〈自然の教育〉〈師弟間の温情〉〈劳作教育〉〈反対の合〉〈第二里行者と人生の開拓者〉〈24時間の教育〉〈国際教育〉	1929年（昭4）玉川学園設立、開校式 1947年（昭22）玉川大学設置認可 2006年（平18）K・12一貫教育スタート 2007年（平19）国際バカロレア（IB）クラス開設 2008年（平20）文部科学省スーパーサイエンスハイスクールSSHに指定（現在4期目の指定） 2016年（平28）幼稚園・小学部でバイリンガルプログラムならびに延長教育プログラムがスタート	小原國芳 （成城小学校元教師）

和光学園	清明学園	自由学園	自由の森学園
幼・小・中 高・大・院	幼・小・中	幼・小・中 高・大	中・高
「理想の新学校」の理念」 定員が少なくて 個別的に手が届く 健康の恵まれた学園 (創立当時の募集ポスターより) 〈人格の陶冶は和光教育の根本精神なり〉	「子供と共に生き、子供を生かし、子供を通して生きる」 〈児童の個性尊重・親自然教育・科学的な検証によるカリキュラム〉	「真の自由人」を育てる キリスト教を土台とし、「思想しつつ生活しつつ 祈りつつ」「生活即教育」「自労自治」という理念のもと、人間教育を実践する。	深く学ぶことを通して人間としての成長と自立を助ける教育を目的に、当時の学校教育を支配していた点数序列主義や管理主義を批判した数学者、遠山啓の「競争原理を超える」教育を実現することを理念として掲げた。 〈管理と競争からの解放を志向した昭和の自由教育〉
1933年(昭8) 創立 1934年(昭9) 小学校開校 1946年(昭21) 高等女学校設立 1947年(昭22) 中学校開校 1950年(昭25) 高等学校開校 1966年(昭41) 大学開学	1930年(昭5) 小学校開校 1933年(昭8) 幼稚園開設 1951年(昭26) 中学校開校	1921年(大10) 女学校(現女子部中高) 1927年(昭2) 小学校新設 1935年(昭10) 男子部(現男子部中高)創設 1949年(昭24) 男子最髙学部開設(4年制) 1950年(昭25) 女子最髙学部開設(2年制) 2024年(令6) 1935年より継続していた中高等部の男女別学2024年度より共学へ移行	1985年(昭60) 中学校・高等学校が開校 2017年(平29) ユネスコ・スクールに加盟登録
成城学園から分かれ、自由な環境の中で個性重視の教育を求める父母を中心とした有志によって創立された	濱野重郎 (成城小学校元教師)	羽仁もと子・吉一夫妻 (共にクリスチャンでありジャーナリスト)	遠藤豊 (元明星学園小中学校長)

明星学園100周年記念シンポジウム
『大正自由教育の現在、そして未来』

2025年3月発行

編集・校正

河住 貴夫(学校法人明星学園 常務理事)

大草 美紀(資料整備委員会)

山森 睦代(資料整備委員会)

中山 みつ(資料整備ボランティア)

写真

大草 鷹平

ブックデザイン 富宇加淳

発行

学校法人明星学園

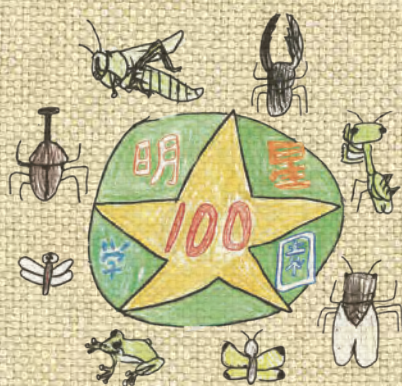
理事長 渡辺 京

〒181・0001 東京都三鷹市井の頭5・7・7
Tel 0422・43・2195

明星学園公式ホームページ「明星学園資料室」

<https://www.myojogakuen.ed.jp/museum/>





おかげさまで
100周年